

教育学研究科教員業績一覧

(2022年4月1日から2023年3月31日)

基礎教育学コース

小玉重夫(教授)

〈共著書〉

『ウクライナ危機から考える「戦争」と「教育」』(日本教育学会国際交流委員会編, 執筆者・小玉重夫, 北村友人, 小松太郎, 澤野由紀子) 教育開発研究所, 2022年10月, 全170頁

〈論文〉

小玉重夫「子ども政策の総合化とグローバル・コモンズ」日本学術協力財団『学術の動向』Vol.27, No.6, 2022年6月, pp.40-43

〈口頭発表〉

小玉重夫「18歳成人と大学初年次教育—ポストコロナ時代のアセンブリー ラップアップ」日本教育学会第81回大会 ラウンドテーブル 2022年8月24日1(オンライン)

小玉重夫「18歳成人時代の主権者教育を考える—サブジェクトとエージェンシーのあいだで— 指定討論」教育思想史学会第32回大会コロキウム2, 2022年9月17日, オンラインと同志社大学

小玉重夫「指定討論: 教育と政治の存在論の方へ」教育哲学会第65回大会ラウンドテーブル1「『政治的なもの』と『教育的なもの』の交差—政治思想における教育/人間形成論の含意を再考する」慶應義塾大学三田キャンパス, 2022年10月23日(日) 16:45~18:45

〈その他〉

小玉重夫・汐見稔幸・無藤隆・高田文子「『子ども学』10号記念座談会」『子ども学』10号, 萌文書林, 2022年5月, pp.7-33

小玉重夫「インタビュー 答えのない問題に立ち向かえる子に~不確実な時代を生き抜くヒント」Z会『Z-SQUARE』2022.7.28., <https://www.zkai.co.jp/saponavi/el/featured/63870/>

小玉重夫「政治教育とシティズンシップ」『女性展望』718号, 公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター, 2022年9月, pp.21-23

小玉重夫「ポスト人文学を誰が担うのか?」教育思想史学会『近代教育フォーラム』31号, 2022年9

月, pp.149-151

小玉重夫「政治を探究する18歳」法学館憲法研究所『オピニオン』2022.10.31., https://www.jicl.jp/articles/opinion_20221031.html

小玉重夫「学校を平和の砦にしていくために」『教職研修』604号, 2022年12月, p.80

小玉重夫「『これから』のために『今』を知る」『NIE ニュース』第101号, 日本新聞協会, 2023年2月, p.1

小玉重夫「コモンズからニューパブリックへ—教育学のアナーキズム的転回へ向けて」『法政大学教職課程年報』vol.21, 2023年3月, pp.117-119

山名淳(教授)

〈著書〉

山名淳編『記憶と想起の教育学——メモリー・ペダゴジー, 教育哲学からのアプローチ』勁草書房, 2022年

Wigger, Lothar / Dirnbeger, Marie (eds.), *Remembrance – Responsibility – Reconciliation: Challenges for Education in Germany and Japan*, J.B. Metzler: Stuttgart (Yamana, Jun, Encountering Absurdity through Theater: An Essay on Remembering and Education about the Atomic Bomb in Hiroshima, 2022, pp. 157 - 167.

エアル, A.『集合的記憶と想起文化——メモリー・スタディーズ入門』(山名淳訳), 水声社, 2022年

〈雑誌論文等〉

Yamana, Jun, 2023, Transiting Representations of the Memory of the Hiroshima Bombing: Remediation as a Form of Intergenerational Boundary Crossing, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, Vol. 17, pp. 19-30. <https://doi.org/10.7571/esjkyoiku.17.19>

Yamana, Jun, 2022, Free Spaces and 'Pedagogical Protection': On the Asylum Theory of Ortwin Henssler and Its Implications for Education, Morimichi Kato (eds.), *Philosophical Reflections on Modern Education in Japan: Strategies and Prospects* (EDUCATIONAL

PHILOSOPHY AND THEORY), pp.1-10. <https://doi.org/10.1080/00131857.2022.2094246>

山名淳「災害の記憶を伝える——「カストロフィ教育」構想について」『NITS NEWS』（独立行政法人教職員支援機構メールマガジン）第198号、2022年

ヴィガー, L. 「似非ビルドゥング批判——テオドル・W・アドルノのビルドゥング論について」（花井洸太・山名淳訳）『研究室紀要』第48号、2022年7月、149-159頁

山名淳「記憶の教育学の構築に向けて——その理論と実践」『三田教育研究』第30号、2022年、4-13頁

山名淳「カストロフィの想起文化と教育——〈メモリー・ペダゴジー〉モデルから平和教育を考える」『カリキュラム研究』第31号、2022年、50-51頁

〈学会発表・講演等〉

山名淳「記憶を〈かたち〉にする——「原爆の絵」プロジェクトから考える〈厄災ミュージアム〉の課題と展望」アジアの災禍とアート・アクション勉強会 2023年3月18日、仙台フォーラス

山名淳「社会の記憶を紡ぐ——集合的記憶論から社会教育の意味を考える」令和4年度広島県生涯学習研究実践交流会、2023年3月11日、広島県情報プラザ

Yamana, Jun, *Memory Pedagogy in Japan: Repräsentation und Übersetzung von Erinnerung am Beispiel des Projekts „Gemälde der Atombombe“ in Hiroshima*, Johann Wolfgang Goethe Universität Frankfurt, Germany, 2023年2月14日（Eberhard Karls Universität Tübingen, 2023年2月16日）

山名淳「メディアとしての玉川学園——印刷物と空間の間で教育が展開する」イデア書院設立100周年&児童百科辞典刊行90周年記念講演会「書物の海へ——イデアとメディア」、2022年12月10日、玉川大学

Yamana, Jun, *What is Memory Pedagogy?*, Educational Philosophy Lecture at Inha University, Korea, 2022年11月29日

Yamana, Jun, *Memory Pedagogy in the Context of International Research Exchanges*, 2022 Annual Conference of KPES “A Pedagogy of ‘Touching’ in the Viral Era: Rethinking Teaching and Learning” Round Table 2: The Future of East Asian Philosophy

of Education: Doing Research from the Post-Colonial Perspective, Seoul National University, Korea 2022年11月26日

山名淳「人間としての文化、ネットワークとしての文化——メモリー・スタディーズから〈自己／文化〉形成論を考える」教育哲学会第65回大会研究討議「口承・画像・記憶と人間形成——文化科学的教育学の試み」2022年10月22日、慶應義塾大学
山名淳「二重の多声性と「翻訳」の場としての国語教育——カストロフィの想起物語と教育を架橋する試み」第143回全国大学国語教育学会年次大会ラウンドテーブル「国語科教育と教育哲学——探究的な対話をどう実現するか」（代表：渡辺哲男）、2022年10月16日、千葉大学

隠岐 さや香（教授）

〈著書〉

立命館大学教養教育センター編『自由に生きるための知性とはなにか——リベラルアーツで未来をひらく』（pp. 61-72担当）晶文社、2022、総頁数454.

柏書房編集部編『絶版本』（pp. 65-73担当）柏書房、2022年総頁数、232.

竹崎一真・山本敦久編『ポストヒューマン・スタディーズへの招待：身体とフェミニズムをめぐる11の視点』（第5章担当）堀之内出版、2022、総頁数、216.

〈雑誌論文〉

Sayaka Oki（単著）、「La définition des sciences physico-mathématiques chez D'Alembert et Diderot. La pluralité des sciences 'newtoniennes' au milieu du XVIII^e siècle », *D'Alembert. Itinéraires d'un savant du siècle*, Jean-Pierre Schandeler dir., Paris, Classiques Garnier, 2023, pp. 141-158.

隠岐さや香（単著）、「フランス革命期におけるアカデミー批判言説とその廃止の経緯について」、『研究室紀要』東京大学大学院教育学研究科 基礎教育学研究室、第49号、2023、pp. 33-44.

石原俊・隠岐さや香（共著）、「対談 研究と教育のゆくえを問う」、『現代思想』（特集・大学は誰のものか——国際卓越研究大学・教職員労働問題・就活のリアル…）青土社、2022（vol. 50-12）、pp. 8-23.

隠岐さや香（単著）、「科学と『専門家』をめぐる諸概念の歴史」、『「専門家」とは誰か』、村上陽一郎

編, 晶文社, 2022, pp. 53-75.

大塚 類 (准教授)

〈著書〉

大塚類 (分担執筆), 「「当事者」について記憶の観点から考える: 当事者研究と現象学的質的研究を手がかりに」山名淳編著『記憶と想起の教育学: メモリー・ペダゴジー, 教育哲学からのアプローチ』, 勁草書房, 2022, 総頁数324.

〈雑誌論文〉

大塚類 (単著), 「児童養護施設で暮らすことを支えるリズム: 措置後数か月の幼児のエピソードから考える」, 『キリスト教社会福祉学研究』第55号, 2023, pp.91-102.

比較教育社会学コース

本田 由紀 (教授)

〈著書〉

本田由紀 (単著), 「メリトクラシーを「弱毒化」するため」, 宮本太郎編『自助社会を終わらせる—新たな社会的包摂のための提言』, 岩波書店, 2022, pp.229-253.

〈雑誌論文〉

本田由紀 (単著), 「高校の探究学習のテーマ設定場面における指導はいかに行われているか: 会話データの分析」, 『教育社会学研究』111集, 日本教育社会学会, 2022, pp.5-24.

本田由紀 (共著), 「学問分野のジェンダーステレオタイプと自己効力感—進学校出身大学生を対象とする男女間比較—」(井出菜都香氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター紀要』Vol.7, 2022, pp.119-133.

〈その他〉

本田由紀 (学会発表), 「人文社会科学系大学教育の分野別習得度が卒業後の仕事に及ぼす影響—追跡調査データを用いた分析」, 日本社会学会第95回大会, 2022

本田由紀 (単著), 「働く者の連帯を取り戻すために」『月刊全労連』313号, 2023, pp.1-11.

本田由紀 (単著), 「「資質」「態度」「能力」という言葉の呪縛」『授業づくりネットワーク』No.43, 2023, pp.56-61.

本田由紀 (インタビュー), 「読み解く 若者たちが生きる「今」」『ひろばユニオン』731号, 2023,

pp.31-35.

本田由紀 (インタビュー), 「この国のためさから、どう脱却していくか: 若者の「あきらめ」を乗り越える」『経済』322号, 2022, pp.93-100.

本田由紀 (単著), 「大学教育の職業的レリバンスを「なかったことに」しないために」『日本労働研究雑誌』No.742, 2022, p.1.

Yuki Honda (presentation), “The Gender Gap in Japan and at the University of Tokyo,” The 7th Cambridge-UTokyo Joint Symposium 2022.

中村 高康 (教授)

〈著書〉

Nakamura, Takayasu, “Relative Indices of Educational Attainment and Trend Analysis of Inequality of Educational Opportunity Using the 2015 SSM Survey Data” Shirahase, Sawako ed. *Social Stratification in an Aging Society with Low Fertility: The Case of Japan*, 2022, pp.51-76.

中村高康 (共編著), 『東大生, 教育格差を学ぶ』(松岡亮二氏・高橋史子氏との共編), 光文社新書, 2023, 総頁数337.

〈雑誌論文〉

Nakamura, Takayasu, “Reflexivity of Meritocracy: The Theory of Education and Selection in the Late Modern Age” *Bulletin of the Graduate School of Education, the University of Tokyo* 62, 2023, pp.503-514.

〈その他〉

中村高康 (単著) 「新型コロナウイルス感染症への警戒度の変化と格差」浜銀総合研究所『新型コロナウイルス感染症と学校等における学びの保障のための取組等による児童生徒の学習面, 心理面等への影響に関する調査研究 報告書』2023, pp.131-146

中村高康 (単著) 「制度改革の視点から高大接続の今後を考える—個別大学の自主性を尊重し, 受験生に配慮した設計を」河合塾「2021年度JCERIレポート」2022.

中村高康 (単著) 「選抜試験の公平性について」河合塾『大学教育の研究』2022, オンライン記事

中村高康 (対談), 「入試改革から見えてくる高大接続問題」, 大内裕和『なぜ日本の教育は迷走するのか』青土社, 2022, pp.109-154.

仁 平 典 宏 (教授)

〈学術論文〉

仁平典宏 (単著) 2023 「「雇用の未来」はどのように記述されてきたのか：1980年代から現在における技術革新言説に注目して」『社会政策』14(3), pp.37-54.

仁平典宏 (単著) 2022 「新自由主義に関する複数の記述をめぐって」『年報社会学論集』35, pp.38-47.

仁平典宏 (単著) 2022 「ディープ・ブルーの神話：〈情報技術革新—雇用—教育〉の連関を社会政策の場所から宙づりにする」『教育学年報』13, pp.69-91.

〈書籍〉

仁平典宏 (共編) 2022 『教育学年報13：情報技術・AIと教育』世織書房.

〈その他〉

仁平典宏 (単著) 2022 「冷笑する社会とボランティア：「やりがい搾取」批判を越えて」Academic Research on Donations 2022年9月28日

仁平典宏 (共著) 2022 「インタビュー：AIは日本の雇用をどう変えるのか?」『教育学年報』13, pp. 255-282.

〈学会・学術会議報告〉

仁平典宏 2022 「「雇用の未来」はどのように記述されてきたのか：1980年代から現在における技術革新言説に注目して」社会政策学会第144回 (2022年度春季) 大会シンポジウム

仁平典宏 2022 「サステナビリティ言説・CSRレポートにおける「経済的なもの」の位置」JAAS (日本科学振興協会) 第1回総会・キックオフミーティング (共催シンポジウム1 計量テキスト分析と社会科学)

仁平典宏・伊藤章・鈴木訪子・田尻佳史 2023 「オープンディスカッション (第1部)」ボランティア全国フォーラム2022シンポジウム

額 賀 美 紗 子 (教授)

〈著書〉

額賀美紗子・藤田結子 (共著) 2022 『働く母親と階層化：仕事・家庭教育・食事をめぐるジレンマ』勁草書房.

〈報告書〉

額賀美紗子, 三浦綾希子, 高橋史子, 徳永智子, 金侖貞, 布川あゆみ, 角田仁 (共著) 2022 『外国につながる生徒の学習と進路状況に関する調査報

告書—都立高校アンケート調査の分析結果』(科学研究費・国際共同加速基金B成果報告書).

〈その他〉

額賀美紗子 2023 (書評) 野入直美著『沖縄のアメラジアン—移動と「ダブル」の社会学的研究』『社会学評論』73(4) 479-480.

額賀美紗子 (単著) 2022 「コスモポリタニズム」『トランスナショナルな教育戦略』佐藤郡衛ほか編『異文化間教育事典』明石書店.

額賀美紗子 2023 「多民族化する日本と移民の子どもの教育権」東京大学教養教育高度化機構シンポジウム2023『今, SDGsはどうなっているのか：「変革」の現状と行方』(パネリスト).

Nukaga, Misako 2023 "The Second Generation Immigrants in Japan: Cross-Ethnic Comparison of 'Newcomer' Children Today" UofTokyo Center for Contemporary Japanese Studies Book Talk Series. (招待講演).

額賀美紗子 2022 「外国につながる生徒の教育機会保障と包括的支援に向けた東京都の課題と可能性—都立高校79校の質問紙調査と30校のインタビューから—」『日立財団 多文化共生社会の構築フォーラム 外国につながるの高校生たちの「活躍する力」を拓く—教育の実態が問いかける支援のあり方—』(招待講演).

Nukaga, Misako 2022 "Children of Immigrants in Japan: Understanding Challenges and Barriers to Integration" UK-Japan Student Conference. (招待講演).

清水睦美・児島明・角替弘規・額賀美紗子・三浦綾希子・坪田光平・劉麗鳳・薮田直子 2022 「移民第二世代の追跡調査—コロナ禍における仕事・家族・差別」『日本教育社会学会』(オンライン口頭発表).

額賀美紗子, 三浦綾希子, 布川あゆみ, 高橋史子, 金侖貞, 徳永智子, 角田仁 2022 「後期中等教育における移民生徒の教育機会と進路保障—都立高校調査にもとづく問題提起—」『日本教育学会81回大会』(オンライン口頭発表).

額賀美紗子, 金侖貞, 徳永智子, 三浦綾希子, 角田仁 2022 「外国につながる生徒の把握と包括的支援に向けた課題—都立高校における質問紙調査とインタビューをもとに—」『異文化間教育学会43回大会』(口頭発表).

生涯学習基盤経営コース

李 正 連 (教授)

〈著書〉

李正連 (分担執筆) 「教育と福祉を架け橋する」 牧野篤編著『社会教育新論—「学び」を再定位する—』ミネルヴァ書房, 2022, pp.103-116.

〈翻訳〉

이정연 『식민지 조선의 불취학자들의 배움—야학 경험자의 구술사를 토대로—』(李正連『植民地朝鮮における不就学者の学び—夜学経験者のオーラル・ヒストリをもとに—』博英社, 2022), 박영story, 2023, 総頁数364.

〈学会発表・講演等〉

李正連「韓国平生教育士制度の成立と展開」第61回社会教育研究全国集会九州集会・日韓交流オプション学習会『躍動する韓国・平生教育士に学ぶ—社会教育士のこれからに向けて—』2022.5.21 (オンライン)

李正連「社会教育学研究における海外研究・国際交流の現状と課題」日本社会教育学会6月集会『70周年特別企画』2022.6.4 (慶應義塾大学, オンライン)

李正連「東アジアにおける家族の文化伝承と教育戦略の変化」2022国際シンポジウム『東アジアの家庭教育に見る文化伝達と家族戦略の変容』コメンテーター, 2022.12.23 (早稲田大学)

新 藤 浩 伸 (准教授)

〈著書〉

牧野篤 (編著), 『社会教育新論—「学び」を再定位する』ミネルヴァ書房, 2022年5月, 総頁数256. (分担執筆: 「社会教育施設と自治の創造」 pp.198-212.)

佐藤一子, 大安喜一, 丸山英樹 (編著), 『共生への学びを拓く—SDGsとグローバルな学び』エイデル研究所, 2022年4月, 総頁数259. (分担執筆: 「学習の自由・表現の自由・文化多様性を育む博物館」 pp.72-86.)

〈学会等発表〉

新藤浩伸, 「博物館と当事者意識—わだつみのこえ記念館の訪問活動から」日本社会教育学会第69回研究大会, 2022年9月17日

新藤浩伸, 「これからの公民館—withコロナ時代のなかで」昭島市公民館開館40周年記念講演, 2022年7月3日

〈書評・その他〉

新藤浩伸, 「書評 上野浩道・田嶋一編『大田堯の生涯と教育の探究—「生きることは学ぶこと」の思想』』『月刊社会教育』第67巻第3号, 2023年3月, pp.58-59.

高木悠子, 布施利之, 新藤浩伸, 村田和子, 姉崎洋一, 田所祐史, 「座談会 権利としての社会教育に『月刊社会教育』が果たすべき役割」『月刊社会教育』第67巻第1号, 2023年1月, pp.34-47.

新藤浩伸, 「書評 小川史著『一九四〇年代素人演劇史論—表現活動の教育的意義』』『社会教育学研究』第58巻, 2022年6月, pp.131-132.

PIAO HUI (特任助教)

〈著書〉

Piao, H., Yamada, M. & Kageura, K. (共著, 分担執筆) (2022). Metalanguages in translator education. In R. Miyata, M. Yamada & K. Kageura (Eds.) *Metalanguages for dissecting translation processes: Theoretical development and practical applications* (pp.38-48). London: Routledge.

Piao, H. & Kageura, K. (共著, 分担執筆) (2022). Incorporating the source document property metalanguage for translation education. In R. Miyata, M. Yamada & K. Kageura (Eds.) *Metalanguages for dissecting translation processes: Theoretical development and practical applications* (pp.166-179). London: Routledge.

〈雑誌論文〉

朴惠・影浦峽 (共著), 「翻訳者コンピテンスの涵養を目的とする翻訳教育カリキュラムの開発に向けたレビュー—『わかること』を介した『できること』の移転に向けて—」『生涯学習基盤経営研究』第47号, 東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース, 2023, pp. 1-17.

〈学会発表〉

Piao, H. & Kageura, K. (共著) (2023, January 27-28). *Reflections on the concepts and methodologies of translation education curriculum design*. The 22nd ITRI International Conference, online.

山 本 真佑花 (特任助教)

〈雑誌論文〉

本田友乃, 山本真佑花, 影浦峽 (共著), 「異なる翻訳間の差異を記述するためのスキームの構築」

(本田友乃氏, 影浦峽氏との共著), 『通訳翻訳研究への招待』第24号, 2022, pp.1-21.

大学経営・政策コース

阿曾沼 明 裕 (教授)

〈雑誌論文〉

阿曾沼明裕 (単著), 「学問の自由・大学の自治・科学者集団の自律性—『学問の自由』の相対性—」, 『年報 科学・技術・社会』第31巻, 科学社会学会, 2022, pp. 67-73.

〈学会発表等〉

阿曾沼明裕 (学会発表), 「アメリカの大学の経済的基盤とその多様性」, アメリカ教育学会第34 回大会, 公開シンポジウム「アメリカの大学が抱える諸問題: 大学の財政基盤と市場からの影響」(発表者: 阿曾沼明裕・長沢誠・川村真理・野崎与志子), オンライン開催, 2022年10月29日.

阿曾沼明裕 (企画・司会), 「課題研究 I 科学技術イノベーション政策と大学・高等教育」(小林信一氏と共同企画, 登壇者: 標葉隆馬氏, 林隆之氏, 青木栄一氏, 佐藤邦明氏), 日本高等教育学会第25回大会, オンライン開催, 2022年5月28日, 日本高等教育学会第25回大会発表要旨録, 2022, pp.175-184.

両 角 亜希子 (教授)

〈雑誌論文〉

両角亜希子 (単著), 「私大ガバナンスをどう考えるか」, 『IDE現代の高等教育』第639号, IDE大学協会, 2022, pp.15-19.

両角亜希子 (単著), 「高等教育データの現在」, 『IDE現代の高等教育』第641号, IDE大学協会, 2022, pp.14-19.

両角亜希子 (単著), 「学校法人制度と評議員会の意義」, 『公益法人』通巻599号 (Vol.51), 公益法人協会, 2022.

両角亜希子 (単著), 「大学職員の採用・育成の課題」, 『IDE現代の高等教育』第646号, IDE大学協会, 2022, pp.9-14.

両角亜希子 (共著), 「大学の事務業務とその効率化の規定要因」(王帥氏との共著), 『大学論集』第55号, 広島大学高等教育研究開発センター, 2023, pp.55-71.

両角亜希子 (共著), 「大学の国際部門に関する事例研究: 国立T大学における変遷と展開を題材とし

て」(衛絢子氏, 柴田研三郎氏, 塚田亜弥子氏, 土居新治氏, 平井陽子氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第62巻, 2022, pp. 437-451.

両角亜希子 (共著), 「大学の国際部門に関する事例研究: 私立A大学における本部一部局の連携を題材として」(高木航平氏, 小椋裕子氏, 加茂下祐子氏, 張燕氏, 水野雄介氏, 森田尚子氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第62巻, 2022, pp. 453-469.

両角亜希子 (単著), 「アンケート調査の分析1: 教学マネジメント政策の教員へのインパクト」, 『教学マネジメントに関する調査研究報告書〜大学の現場の実態分析と教員・学生に届く実質化の提言〜』, 大学基準協会 大学評価研究所 教学マネジメントに関する調査研究部会, 2023, pp. 5-16.

Akiko MOROZUMI (共著), 「Present Status and Future Prospects for Management Capability Training for Senior University Management: From a Survey of Senior Managers」(Shuai WANG氏との共著), 『CSRDA Discussion Paper Series』No.44, 2023.

〈報告書〉

両角亜希子 (編著), 『大学論叢 創刊号 大学職員のキャリアと仕事—全国大学事務職員調査の分析から』(木村弘志氏との共編), 東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策コース, 2022, 総頁数161.

〈口頭発表〉

両角亜希子「米国大学のBoard of Trustees」東京大学 新しい大学モデル構想会議・ガバナンスタスクフォース, 2022年5月13日, Zoomミーティング

両角亜希子「コメント (論点整理と質問)」日本高等教育学会第25回大会 課題研究 I 「科学技術イノベーション政策と大学・高等教育」, 2022年5月28日, Zoom

両角亜希子・王帥「業務改革のボトルネックは何か—全国大学職員調査から」日本高等教育学会第25回大会 自由研究発表, 2022年5月29日, Zoom

両角亜希子「経営人材としての大学職員の役割と意識改革—大学を強くするために」—New Education Expo 2022, 2022年6月3日, 東京ファッションタウンビル (TFTビル) 西館2F TFTホール

両角亜希子「経営人材としての大学職員の役割と意識改革—大学を強くするために」—New Education Expo 2022, 2022年6月3日, 東京ファッションタウンビル (TFTビル) 西館2F TFTホール

両角亜希子「ミドルマネジメントについて考える」芝浦工業大学教育イノベーション推進センターミドルマネジメントセミナー, 2022年6月27日, Zoomミーティング

両角亜希子「高等教育政策の動向とこれからの大学職員」学校法人十文字学園 SD研修, 2022年6月30日, 十文字学園新座キャンパス

両角亜希子「大学職員は変わったか—職員調査の二時点比較から—」大学基準協会 第6回大学評価研究所「公開研究会」, 2022年7月7日, Zoomウェビナー

両角亜希子「望ましい学長リーダーシップとは」第2回 大学リーダーシップ公開研究会 学長リーダーシップと大学の将来, 2022年7月9日, アルカディア市ヶ谷

両角亜希子「コロナ禍における大学教育・大学教員のあり方」北里大学 医療衛生学部 2022年度教員教育研修会, 2022年8月24日, Zoomミーティング

両角亜希子「コロナ禍と大学職員—全国大学職員調査から—」IDE大学協会東海支部 令和4年度IDE大学セミナー, 2022年8月26日, Zoomウェビナー

両角亜希子「大学経営論から見た総長選考」東京大学総長選考・監察会議 学内WG, 2022年9月6日, Zoomミーティング

両角亜希子「人文社会系研究におけるELSI・RRI」東京大学研究倫理セミナー, 2022年10月3日, Zoomウェビナー

両角亜希子「大学職員の現状・課題・展望」大学コンソーシアム京都 基調講演 2022年度 第20回SDフォーラム ガバナンス改革と大学職員の役割, 2022年10月30日, Zoomウェビナー

両角亜希子「高等教育政策と私立大学のガバナンス」日本高等教育学会会長プロジェクト「高等教育政策の研究」第5回公開研究会, 2022年11月7日, Zoomミーティング

両角亜希子「高等教育政策の動向とこれからの大学職員とは」2022年度 第12期「JMA大学SDフォーラム」, 2022年11月18日, Zoomミーティ

ング

両角亜希子「学長セミナー 趣旨説明」東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策コース 2022年度 オンライン学長セミナー 構成員の参加と協力をいかに引き出すか, 2022年12月27日, Zoomミーティング

両角亜希子「大学のリーダーシップ—期待・課題・展望—」第29回大学教育研究フォーラム (2023年3月15日, Zoomウェビナー)

両角亜希子「教育現場から見た教学マネジメント—教員アンケートから—」令和4年度 大学基準協会大学評価研究所大会 (2023年3月16日, Zoomウェビナー)

両角亜希子「大学組織と学長リーダーシップ」広島大学高等教育研究開発センター 2022年度公開研究会 (2023年3月29日, Zoomウェビナー)

〈その他〉

両角亜希子「書評 ジェレミー・ブレーデン, ロジャー・グッドマン著/石澤麻子訳『日本の私立大学はなぜ生き残るのか—人口減少社会と同族経営: 1992-2030』, 『IDE現代の高等教育』第639号, IDE大学協会, 2022, pp. 70-71

読売新聞「私大ガバナンス 評議員会の権限拡大」(2022年4月13日) へのコメント

日本大学新聞 2022年4月20日「日本大学「新生」への道」へのコメント

週刊東洋経済 臨時増刊『本当に強い大学2022』67頁「私大のガバナンス改革の行方」コメント

朝日新聞デジタル 2022年6月3日「日大の「当たり前」問い直す契機に 識者が語る林真理子氏への期待」コメント

朝日新聞デジタル2022年6月8日「21億円着服事件で揺れた経営難の私大, 新理事長に「物言う学長」」コメント

読売新聞オンライン 2022年7月22日「どうなる林真理子・新理事長の日大改革...カギ握る「経営」と「教学」の連携」コメント

読売新聞 2022年7月23日 コメント (地方国立大学定員増)

TIMES Higher Education 2022年10月28日 Tokyo's STEM goals put private universities in 'tricky position'コメント

国立大学協会 令和4年度大学マネジメントセミナー「これからのリカレント教育」2022年11月22日, コーディネーター

対談「特集 2030年に向けて乗り越えるべき壁：経営戦略の実質化・経営意思決定のスピード化 デロイト トーマツ グループ パートナー 安井望氏との対談『リクルートカレッジマネジメント』2023年1月号, 41(1), 6-11

学生新聞 吾輩2023年3月 ChatGPT時代の大学レポートへのコメント

2022年度 第2回IDE高等教育研究フォーラム オンラインセミナー「大学における業務改革を考える」パネリスト (2023年3月17日)

教育心理学コース

岡田 猛 (教授)

〈学術論文〉

Ishiguro, C., Matsumoto, K., Agata, T., & Okada, T. (2022). Development of the Japanese Version of the Short Scale of Creative Self. *Japanese Psychological Research*. <https://doi.org/10.1111/jpr.12418>

Sun, J., and Okada, T. (2022). Interaction in acting training and its different manifestations in novice and professional actors. *Frontiers in Psychology*, 13, 949209.

石黒千晶, 夏川真里奈, & 岡田猛. (2022). 表現や創造を触発するオンラインアートワークショップの開発と評価. *教育システム情報学会誌*, 39(3), 380-385.

〈国際学会発表等〉

Okada, T. (2022). Inspiration, exploration, and imagination: Cognitive process for artistic creativity. Keynote speech (基調講演. *ISLS (International Society for the Learning Sciences) Annual Meeting 2022*, Hiroshima, Japan. June 6th. (online)

Sun, J., & Okada, T. (2022). Interaction in Acting Training and its Manifestations in Novices and Actors. *Proceedings of the 44th Annual Meeting of the Cognitive Science Society*, 2250-2256.

Shimizu, D., & Okada, T. (2022). Dynamics of Interaction with the Environment in Creativity: Embodied Imagination Framework. *Proceedings of the 44th Annual Meeting of the Cognitive Science Society*, 3446-3452

Ishiguro, C., Matsumoto, K., Agata, T., Yomogida, I., Fujimoto, M., & Okada, T. (2022 in Italy). Adolescents' Extracurricular Cultural Activities and the Development of the Creative Self. *MIC (Marconi*

Institute for Creativity) Conference. Italy, August 31 - September 2.

Sasaki, Y., Yokochi, S., & Okada, T. (2022). An examination of exploratory aspects of classical music learners' practice process. *MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2022*. Italy, August 31 - September 2.

Shi, L., Yokochi, S., & Okada, T. (2022). Art majors' concerns and difficulties with creative activities in further education. *MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2022*, Italy, August 31 - September 2.

Iwai, Y., & Okada, T. (2022). Is Mallarmé a disciple of Baudelaire? Effects of imitation on poetry composition across a lifespan. *MIC (Marconi Institute for Creativity) Conference 2022* Bologna, Italy(online), August 31 - September 2.

遠藤利彦 (教授)

〈著書〉

遠藤利彦 (2022). アタッチメントと社会性・道徳性の発達. 『社会福祉学習双書』編集委員会 (編), 社会福祉学習双書2022・第11巻・心理学と心理的支援 (pp.114-121). 全国社会福祉協議会.

遠藤利彦 (監修) (2022). アタッチメントがわかる本:「愛着」が心の力を育む. 講談社.

岩壁茂・遠藤利彦・黒木俊秀・中嶋義文・中村知靖・橋本和明・増沢高・村瀬嘉代子 (編著). (2023). 臨床心理学スタンダードテキスト. 金剛出版.

〈学術誌等論文〉

遠藤利彦 (2022). 「非認知能力」なるものの発達と教育. 発達 (ミネルヴァ書房), 170, 2-8.

大久保圭介・唐音啓・遠藤利彦・野澤祥子 (2022). 妊娠期の夫婦間の話し合い度と育児期のゲートキーピングの関連: 就業形態の組み合わせごとの検討. 発達心理学研究, 33(2).

遠藤利彦 (2022). 乳幼児期の社会情動的発達を支え促す環境のあり方とは. 学術の動向, 27, 22-25.

遠藤利彦 (2022). 発達の連続性と変化を問うということ: アタッチメント縦断研究に見るアボリア. 発達心理学研究, 33(4), 193-204.

出野美那子・大久保圭介・滝沢龍・遠藤利彦. (2022). 児童期後期から青年期後期における肯定的再評価と感情にまつわる話し合い: コホー

ト系列デザインによる10年の縦断的関連. 発達心理学研究, 33(4), 378-390.

Iimura, S., Deno, M., Kibe, C., & Endo, T. (2022). Beyond the Diathesis-Stress Paradigm: Effect of the Environmental Sensitivity x Pubertal Tempo Interaction on Depressive Symptoms. *New Directions for Child and Adolescent Development*. PMID: 35274434 DOI: 10.1002/cad.20456.

Okubo, K., Tang, Y., Lee, J., Endo, T., & Nozawa, S. (2022). Development of the Japanese Parenting Style Scale and examination of its validity and reliability. *Scientific Reports* 12, 18099.

遠藤利彦 (2023). 幼児の心の発達と情報機器：その可能性と課題を巡る. 幼児教育じほう, 50(10), 12-18.

西田季里・浜名真以・遠藤利彦 (2023). 幼稚園・認定こども園における非認知能力を育む保育実践：取り組みの局面による分類. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 第62, 1-13.

遠藤利彦 (2023). アタッチメントの枢要な役割を再確認する—乳児院調査の結果にも拠りながら. 小児保健研究, 82(2), 84-87.

〈エッセイ・雑誌記事・講演録等〉

遠藤利彦 (2022). 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達(4)：「安心の基地」が支え促す自発的な遊びは主体的・対話的で深い学び. 静私幼だより (静岡県私立幼稚園振興協会), 194, 3-4.

遠藤利彦 (2022). 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達(5)：アタッチメントの個人差とそれを分けるもの. 静私幼だより (静岡県私立幼稚園振興協会), 195, 3-4.

遠藤利彦 (2022). 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達(6)：現代的集団共同型子育ての中核としての園の役割. 静私幼だより (静岡県私立幼稚園振興協会), 196, 3-4.

遠藤利彦 (2022). 親子の関係性における「自己と他者」：情緒の利用可能性の大切さ. 金子書房note, <https://www.note.kanekoshobo.co.jp/n/nb26f6faafaa3>.

遠藤利彦 (2022). アタッチメントが支え促す自己と社会性の発達. まなびの広場 (全日本私立幼稚園幼児教育研究機構, 1, 3.

遠藤利彦 (2022). チーム育児って、なーに？ 稲

城市「女と男のフォーラムいなぎ2022」記録集, 4-16.

遠藤利彦 (2022). アタッチメントが拓く子どもの未来. 日本小児科医会・第23回「子どもの心」研修会講演集

遠藤利彦 (2022). アタッチメント—子どもの健やかな心を育む揺りかご. 全母協通信, 154, 10-13.

遠藤利彦 (2022). (高校生に伝えたい) 感情の心理学. 心理学ワールド, 99, 42-43.

遠藤利彦 (2023). 家庭と園・学校, 二つの世界に生きる子供の発達 アタッチメントと非認知的な心の発達. En-ichi Forum, 2023, 4-8.

遠藤利彦 (2023). 絵本が拓く子どもの育ち—共同注意と社会的参照を中心に. 保育の友 (全国社会福祉協議会), 2023春, 11-13.

遠藤利彦 (2023). 子育ての悩み相談室21. 暮らしの手帖, 2023spring, 116-117.

〈報告書等〉

遠藤利彦 (研究代表) (2022). Cedep×ポプラ社共同研究プロジェクト・調査研究ダイジェスト『令和の子どもと絵本・本環境』. 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター.

遠藤利彦 (分担執筆) (2022). 終章：社会情緒的能力に関する今後の研究及び教育上の課題. 国立教育研究政策研究所・令和3年度プロジェクト研究『社会情緒的能力に関する今後の研究及び教育上の課題：社会情緒的（非認知）能力の発達と環境に関する研究：教育と学校改善への活用可能性の視点から』発達調査チーム研究報告書：新型コロナウイルス感染症流行下における児童生徒の社会情緒的（非認知）能力をめぐる状況：流行初期に関する文献調査.

遠藤利彦 (研究代表) (2023). Cedep×凸版印刷共同研究プロジェクト・シンポジウム『架け橋期の非認知能力とICT活用の可能性』報告書. 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター.

遠藤利彦 (分担執筆) (2023). 第2章：学級規模と非認知能力. 終章：まとめと残された課題（非認知能力班）. 国立教育研究政策研究所・令和4年度プロジェクト研究『教員の配置等に関する教育政策の実証に関する研究』報告書.

〈学会発表〉

遠藤利彦 (2022). 基調講演：『アタッチメントが拓く子どもの未来：「非認知」なる心の発達と保育者の役割』。日本保育学会第75回大会（聖徳大学），2023年5月14・15日。

野澤祥子・淀川裕美・小崎恭弘・増田まゆみ・遠藤利彦。(2022). 自主シンポジウム：保育の質をいかに実証的に研究するか：「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」から論点と可能性について考える（指定討論）。日本保育学会第75回大会（聖徳大学），2023年5月14・15日。

西田季里・遠藤利彦 (2022). 園児の興味を見とり支えるICT活用の可能性：園児の自発的報告を記録するタブレット用アプリ実証実験（ポスター発表）。日本保育学会第75回大会（聖徳大学），2023年5月14・15日。

遠藤利彦 (2022). 特別講演：アタッチメントの重要な役割を再確認する：乳児院調査の結果にも拠りながら。日本小児保健協会・第69回学術集会（三重大学：三重県総合文化センター）。2022年6月25日。

遠藤利彦 (2022). 多様な子育て環境の中で、こどもに携わる人達に求められるものは何だろうか？：赤ちゃん学から見る「多様性と包摂」（話題提供）。日本赤ちゃん学会・学術集会第22回学術集会・プレングレス（自治医科大学）。2022年7月1日。

遠藤利彦 (2022). 基調講演：『文化的・進化的視座から見た父子関係』。日本家族心理学会第39回大会（新潟青陵大学）。2022年11月12日。

畑野快・川本哲也・杉村和美・中尾敬・高村真広・千島雄太・遠藤利彦。(2023). 自主シンポジウム：アイデンティティ研究の発展に向けて：発達メカニズムの解明と支援の方策を探る（指定討論）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

野澤祥子・高岡純子・大久保圭介・江見桐子・則近千尋・神谷哲司・遠藤利彦。(2023). 自主シンポジウム：母親、父親、子どもの発達を家族システムの観点から検討する：「乳幼児の生活と育ち」研究プロジェクト（指定討論）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

白井利明・都築学・藤崎眞知代・干潟淳子・遠藤利彦。(2023). ラウンドテーブル・ディスカッション：縦断研究において調査協力者と振り返る意義と方法：研究者と協力者の対話的關係性の構築

（指定討論）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

二村郁美・廣戸健悟・若林紀乃・河村悠太・遠藤利彦。(2023). ラウンドテーブル・ディスカッション：思いやりを複眼的視座から再考する（指定討論）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

浜名真以・則近千尋・西田季里・平田悠里・利根川明子・丸山亜沙美・山西妙子・遠藤利彦。(2023). 幼児の非認知尺度の開発に向けた予備的検討(1)：保護者評定における因子構造の分析（ポスター発表）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

平田悠里・浜名真以・西田季里・則近千尋・利根川明子・丸山亜沙美・山西妙子・遠藤利彦。(2023). 幼児の非認知尺度の開発に向けた予備的検討(2)：保育者評定における因子構造の分析（ポスター発表）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

西田季里・則近千尋・平田悠里・浜名真以・丸山亜沙美・山西妙子・遠藤利彦。(2023). 園児の「みて!」「きいて!」を記録するタブレット用アプリの開発と実証実験（ポスター）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

野澤祥子・滝口圭子・高橋翠・遠藤利彦・秋田喜代美。(2023). 1歳児クラスの子どもと保育者の関係性と発達との関連：「保育の質と子どもの発達に関する縦断研究」から（ポスター発表）。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

江見桐子・野澤祥子・高岡純子・大久保圭介・則近千尋・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦・秋田喜代美・木村治生。(2023). 母親に完璧さを求めない育児や家事の重要性とその影響：乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究2022(1)。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

則近千尋・野澤祥子・高岡純子・大久保圭介・江見桐子・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦・秋田喜代美・木村治生。(2023). きょうだい誕生に伴う子どもの非認知能力の縦断的变化：乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究2022(2)。日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）。2023年3月3～5日。

大久保圭介・野澤祥子・高岡純子・則近千尋・江見

桐子・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦・秋田喜代美・木村治生。(2023). 男性の育休取得と日数が産後の夫婦関係の変化に与える影響：乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究2022(3). 日本発達心理学会第34回大会（立命館大学）. 2023年3月3～5日.

〈講演等〉

遠藤利彦 招待講演：養育者の関わりから見るアタッチメント. 板橋区子ども家庭総合支援センター講演会. 2022年4月19日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 袋井市幼児教育講演会（オンライン開催）. 2022年4月28日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントが拓く子どもの未来. 公益法人日本小児科医会「子どもの心」研修講演会（砂防会館）. 2022年5月8日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 横須賀市保育士会総会講演会（横須賀市立総合福祉会館）. 2022年5月14日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと保育者の役割. 横浜市幼稚園協会講演会（神奈川県民ホール）. 2022年5月18日.

遠藤利彦 招待講演：乳児保育で大切にしたいもの. 春日井市保育連盟講演会（春日井市市民会館）. 2022年5月28日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 岡山市保育協議会講演会（オンライン開催）. 2022年5月31日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 埼玉県西部地区保育士会講演会（オンライン開催）. 2022年6月4日.

遠藤利彦 基調講演：乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育者の役割. 東京都社会福祉協議会・第62回関東ブロック保育研究大会（オンライン開催）. 2022年6月7日.

遠藤利彦 招待講演：子ども虐待とアタッチメント. 児童虐待防止協会「子ども虐待」研修講演会（オンライン開催）. 2022年6月14日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 浜松民間保育園園長会講演会（ホテルコンコルド浜松）. 2022年6月16日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 板橋区保育研修講演会（板

橋区グリーンホール）. 2022年6月17日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 藤沢市幼児教育協議会講演会（コンフォール藤沢）. 2022年6月18日.

遠藤利彦 招待講演：非認知の力を育む：乳幼児期から児童期の心の発達. 茅ヶ崎市子ども子育て講座講演会（茅ヶ崎市役所）. 2022年6月21日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 台東区児童保育講演会（台東区生涯学習センター）. 2022年6月23日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期の社会情動的発達を支える教育・保育. 広島市保育連合連盟講演会（広島市南区民文化センター）. 2022年6月29日.

遠藤利彦 招待講演：「非認知」なる心の発達と教育. 奈良県スーパーシティ構想会議・講演会（オンライン参加）. 2022年6月30日.

遠藤利彦 招待講演：乳児保育におけるアタッチメント. 大阪私立保育連盟講演会（大阪市学会館）. 2022年7月8日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. キリスト教保育連盟関東部会（オンライン開催）. 2022年7月15日.

遠藤利彦 招待講演・パネルディスカッション：乳幼児期における社会性の萌芽と発達：人とつながる心の礎を築く. 第12回茅ヶ崎市響きあい教育シンポジウム（茅ヶ崎市役所）. 2022年7月27日.

遠藤利彦 招待講演：育児・保育とメディア. 新潟市保育士会研修大会講演（新潟ユニゾンプラザ）. 2022年7月29日.

遠藤利彦 招待講演：発達臨床的視座から見るアタッチメント. 墨田特別支援教育研修会講演（墨田特別支援学校）. 2022年8月1日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントから見る乳幼児の発達. 令和4年度・秋田県保育協議会・乳児保育講演会（オンライン開催）. 2022年8月10日.

遠藤利彦 招待講演：育児・保育とメディア. 石川県認定こども園研修大会講演（金沢市図書館ホール）. 2022年9月2日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 座間市幼児教育講演会（オンライン開催）. 2022年9月3日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達②. 袋井市幼児教育講演会（オンライン開催）. 2022年9月15日.

遠藤利彦 基調講演：コロナ禍における保育で大切

にしたいこと、第65回全国保育研究大会（オンライン参加）、2022年9月16日。

遠藤利彦 招待講演：「非認知」なる心の発達と教育、京都教育大学特別教育支援セミナー（京都教育大学）、2022年9月17日。

遠藤利彦 招待講演：養育者と子どもの関係性と子どもの社会情緒的発達、千葉県子どもと親のサポートセンター・令和4年度研究会（千葉県子どもと親のサポートセンター）、2022年9月29日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、令和4年度東北地区私立幼稚園教員研修大会講演会（山形聖マリアこども園ホール）、2022年10月7日。

遠藤利彦 招待講演：幼児の心の発達と保育者の役割、石川県社会福祉協議会主催保育講演会（オンライン開催）、2022年10月18日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、前橋市幼保連携型認定こども園協会研修会（群馬県公社総合ビル）、2022年10月21日。

遠藤利彦 招待講演：「非認知」なる心の発達と教育、群馬県ASK研修会（群馬県公社総合ビル）、2022年10月22日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割、板橋区保育研修講演会（板橋区グリーンホール）、2022年10月28日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、高岡市保育・幼児教育講演会（オンライン開催）、2022年10月29日。

遠藤利彦 招待講演：発達臨床の視座から見るアタッチメント、横浜市児童相談所研修講演会（横浜市港北公会堂）、2022年10月31日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割、川崎市保育士等キャリアアップ研修講演会（オンライン・オンデマンド開催）、2022年11月1日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、江戸川区認可私立保育園講演会（タワーホール船堀）、2022年11月2日。

遠藤利彦 招待講演：子育て・子育ての基本について考える、藤枝市幼児教育振興会講演会（藤の瀬会館）、2022年11月4日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児の発達とアタッチメント、鹿児島県保育園協会・乳児保育研修講演会（奄美の里）、2022年11月8・9日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割、中野区保育・幼児教育講演会（中野区産業振興センター）、2022年11月11日。

遠藤利彦 招待講演：心と身体を育むイヤイヤ期、令和4年度文京区親子保健講演会（文京シビックセンター）、2022年11月14日。

遠藤利彦 招待講演：生涯発達の視座から見る胎児期・乳幼児期の枢要な役割、こども家庭庁・「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会（オンライン参加）、2022年11月15日。

遠藤利彦 招待講演：“非認知能力”…子どもの成長に必要な心の土台の育て方、藤沢市家庭教育セミナー講演会（藤沢市鶴沼公民館ホール）、2022年11月17日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、杉並区保育研修講演会（杉並区役所）、2022年11月18日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、杉並区保育研修講演会（杉並区役所）、2022年11月18日。

遠藤利彦 招待講演：「子育て支援」の前に「子育て支援」を、東京都子ども未来会議講演（オンライン参加）、2022年11月24日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割、山形村山市幼児教育・保育施設連絡協議会主催保育講演会（村山市甌葉プラザ）、2022年11月25日。

遠藤利彦 招待講演：幼児の心の発達と保育者の役割、多摩市幼児教育リーダー研修会講演（オンライン開催）、2022年12月6・9・13日。

遠藤利彦 招待講演：低年齢保育で大切にしたいこと、厚生労働省・令和4年度保育実践 充実推進のための中央セミナー（NS虎ノ門ビル）、2022年12月15日。

遠藤利彦 基調講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、北海道私立幼稚園協会・令和4年度研修講演会（アスティ45）、2023年1月10日。

遠藤利彦 招待講演：子ども虐待とアタッチメント、神奈川県福祉こども未来局・令和4年度私設保育施設等保育担当者研修会講演（オンライン開催）、会2023年1月20日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達、目黒区私立幼稚園協

会講演会（オンライン開催）. 2023年2月1日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達②. 江戸川区認可私立保育園講演会（タワーホール船堀）. 2023年2月1日.

遠藤利彦 招待講演・パネルディスカッション：乳幼児の心の発達とアタッチメント：安心感の輪と一人でいられる力の大切さ. 母子健康協会・第43回小児の健康と育児についてのシンポジウム（アルカディア市ヶ谷）. 2023年2月8日.

遠藤利彦 招待講演：保育研究における観察の在り方について. 日本保育協会石川県支部研究会講演（金沢歌劇座）. 2023年3月10日.

針 生 悦 子（教授）

〈著書〉

針生悦子「言語発達」野島一彦（監修），森岡正芳・岡村達也・坂井誠・黒木俊秀・津川律子・遠藤利彦・岩壁茂（編）『臨床心理学中辞典』（pp.106-7），遠見書房，2022.

〈学会発表〉

岩立文香・針生悦子（学会発表），「話者に対する幼児の信頼性判断：発話態度と情報の正確さという手がかりに着目して」，日本教育心理学会第64回総会，2022.

趙婧・針生悦子（学会発表），「話者多様性が2歳児の語彙発達に与える影響」，言語科学会第23回年次国際大会，2022.

針生悦子（学会発表），「子どもの発達にともなう養育者の育児語使用量の変化：10か月から24か月にかけての縦断研究より」，日本発達心理学会第34回大会，2023.

〈その他〉

針生悦子（招待），「音声がことばになるまでの発達」，小児リハビリテーション，13，50-61，2022.

針生悦子（招待講演），「赤ちゃんの言語獲得：支える仕組みと脳，環境」，応用脳科学アカデミー（一般社団法人 応用脳科学コンソーシアム），2022.

針生悦子（招待講演），「乳幼児のことばの学びを支える『情報』」，日本国語教育学会研究部第一回公開研究会，オンライン，2022.

清 河 幸 子（准教授）

〈雑誌論文〉

Kiyokawa, S., Miyamoto, D., Nishinaka, M., Namba,

Y., Minegishi, T., Miyata, R., & Osawa, H. (2023). Science fiction prototyping method improves readers' narrative experiences. *IIAI Letters on Informatics and Interdisciplinary Research*, 3, <https://doi.org/10.52731/liir.v003.072>

Namba, Y., Nishinaka, M., Kiyokawa, S., Miyamoto, D., Minegishi, T., Miyata, R., & Osawa, H. (2023). Evaluating sci-fi readers' perspective: Correlation between immersive emotion and speculative factors. *IIAI Letters on Informatics and Interdisciplinary Research*, 3, <https://doi.org/10.52731/liir.v003.062>

〈学会発表〉

天井響子・清河幸子（2023）. 困難を克服した他者の動画は中学生の内的保護因子を高めるか——未来展望とポジティブ思考に対するモデリングを通じた介入の効果検証——日本発達心理学会第34回大会発表論文集，241.

原和久・清河幸子・光永悠彦（2022）. 第二言語の文章理解における読解方略の使用——未知語への対処に着目して——電子情報通信学会技術研究報告，122(24)，35–40.

清河幸子・河野莊子（2022）. 孤独の捉え方を変える手段としての共通点探索 電子情報通信学会技術研究報告，122(24)，45–46.

酒井美鳥・清河幸子（2022）. 身体運動としてのダンスが心理的健康を促進するメカニズム 電子情報通信学会技術研究報告，122(24)，132–135.

佐々木一洋・清河幸子（2022）. 知的嗜好を捉える——「面白さ」の解体はどこまで進んでいるか——電子情報通信学会技術研究報告，122(24)，140–144.

吉田さやか・清河幸子（2022）. 説明は表象変化を促進するか？——オンライン環境での検討——電子情報通信学会技術研究報告，122(24)，41–44.

〈その他記事〉

浅野倫子・坊農真弓・川合伸幸・小橋康章・森田純哉・中村國則・白水始・創刊30周年記念特集編集編委員会（寺田和憲・清河幸子・服部雅史・布山美慕・平知宏）（2023）. 座談会：『認知科学』の過去・現在・未来を語る 認知科学，30(1)，89–93. <https://doi.org/10.11225/cs.2022.080>

石黒千晶・清水大地・清河幸子（2022）. 誌上討論「『創造的自己』をめぐる」編集にあたって 29(2)，266–269. <https://doi.org/10.11225/cs.2022.020>

石黒千晶・清水大地・清河幸子（2022）. 「創造的自己」から創造性研究を捉え直す 29(2)，289–292

<https://doi.org/10.11225/cs.2022.021>

創刊30周年記念特集編集編委員会（清河幸子・平知宏・布山美慕・服部雅史・寺田和憲）（2023）. ユーザーから見た『認知科学』：アンケート調査結果 認知科学, 30(1), 83-88. <https://doi.org/10.11225/cs.2022.079>

〈講演〉

清河幸子（2022）. 学びにおける他者の役割 革新的学びの創造学寄付講座シンポジウム第2回「学びのプロセス」 2022年7月 オンライン https://tv.he.u-tokyo.ac.jp/lecture_5990/?set_language=ja

清河幸子（2022）. 協同が問題解決に及ぼす影響 心理学科の会 2022年10月 日本女子大学

清河幸子（2022）. 他者との協同が問題解決に及ぼす影響 日本認知科学会若手の会 2022年10月 東京大学

〈その他〉

他者との関わりで生まれる、これからの学びの姿とは？——清河幸子さんインタビュー—— 2023年1月 https://laboratory.jpn.panasonic.com/kizashi-lab/voice/interview/interview_01.php

岡田 謙 介（准教授）

〈雑誌論文〉

Oka, M., Saso, S., & Okada, K. (2023). Variational inference for a polytomous-attribute saturated diagnostic classification model with parallel computing. *Behaviormetrika*, 50(1), 63-92.

Oka, M., & Okada, K. (2023). Scalable Bayesian Approach for the Dina Q-Matrix Estimation Combining Stochastic Optimization and Variational Inference. *Psychometrika*, 88(1), 302-331.

Fujita, K., & Okada, K. (2023). Adaptive optimal stimulus selection in cognitive models using a model averaging approach. *Behaviormetrika*, 50(1), 431-463.

Fujita, K., Okada, K., & Katahira, K. (2023). Stimulus selection in a Q-learning model using Fisher information and Monte Carlo simulation. *Computational Brain & Behavior*, 6, 262-279.

野々田聖一・岡田謙介. (2023). 一対比較型とリッカート型の心理測定の比較 —信頼性・妥当性・回答のしやすさの観点から—. 心理学研究, 93(6), 526-535.

若井大成・岡田謙介. (2022). メタ理解判断プロセスの認知モデリング. 基礎心理学研究, 40(2),

157-169.

工藤与志文・南風原朝和・村井潤一郎・岡田謙介・国里愛彦・平石界・柴山直. (2022). 『心理学の7つの大罪』から考える心理学研究法. 教育心理学年報, 61, 291-303.

〈招待講演〉

Okada, K., Fukushima, K., & Oka, M. (2022年9月). Diagnostic classification modeling for making the most use of item response data. Japanese Joint Statistical Meeting 2022 JSS-KSS-CSA Joint Session: Complex data analysis.

岡田謙介 (2022年9月)「再現性の危機はなぜベイズ統計的データ分析法への注目を高めたのか」2022年外国語研究の再現可能性研究会「再現可能な外国語教育研究のために」

岡田謙介 (2022年9月)「日本テスト学会誌へのオープンサイエンス・バッジの導入」日本テスト学会第20回大会実行委員会企画シンポジウム「テスト学におけるオープンサイエンス」

岡田謙介 (2022年7月)「人間計測の基礎」応用脳科学コンソーシアム 応用脳科学アカデミー.

宇佐美 慧（准教授）

〈雑誌論文〉

Okuma, K., Sawada, M., Aihara, M., Doi, S., Sekine, R., Usami, S., Ohe, K., Kubota, N., Yamauchi, T. (2023). Impact of the COVID-19 pandemic on the glycemic control and medication in people with diabetes mellitus: a retrospective cross-sectional observational study. *Journal of Diabetes Investigation*.

Tomita, Y., Suzuki, K., Yamasaki, S., Toriumi, K., Miyashita, M., Ando, S., Endo, K., Yoshikawa, A., Tabata, K., Usami, S., Hiraiwa-Hasegawa, M., Itokawa, M., Kawaji, H., Kasai, K., Nishida, A., & Arai, M. (2023). Urinary exosomal microRNAs as predictive biomarkers for persistent psychotic-like experiences. *Schizophrenia*, 9.

Hayashi, T., Wada, N., Kubota, T., Koizumi, C., Sakurai, Y., Aihara, M., Usami, S., Yamauchi, T., Kubota, N. (2023). Associations of sleep quality with the skeletal muscle strength in patients with type 2 diabetes with poor glycemic control. *Journal of Diabetes Investigation*, 14,

801-810.

Sawada,M., Ohkuma,K., Aihara,M., Doi,S., Sekine,R., Ichi,I., Usami,S., Ohe,K., Yamauchi,T., Kubota,N.,(2023). Impact of the COVID-19 pandemic on the glycemic control, eating habits and body compositions of people with diabetes mellitus. *Journal of Diabetes Investigation*, 14, 321-328.

宇佐美慧 (2022). 個人内関係の推測と統計モデル——ランダム切片交差遅延パネルモデルを巡って——*発達心理学研究*, 33, 267-286.

Usami,S. (2022). Within-person variability score-based causal inference: A two-step estimation for joint effects of time-varying treatments. *Psychometrika*.

Ando,S., Suzuki,H., Matsukawa,T., Usami,S., Muramatsu,H., Fukunaga,T., Yokoyama,K., Okazaki,Y.& Nishida,A. (2022). Comparison of lithium levels between suicide and non-suicide fatalities: cross-sectional study. *Translational Psychiatry*, 12:466.

〈講演等〉

宇佐美慧 (2022). テストの測定・評価と項目反応理論 (IRT) の適用可能性について厚生労働省 (オンライン開催) 4月28日

宇佐美慧 (2022). 個人内関係の推測と統計モデル——ランダム切片交差遅延パネルモデルを中心に——*京都医学総合研究所 (オンライン開催)* 4月27日

臨床心理学コース

能智正博 (教授)

〈著書〉

能智正博 (分担執筆), 「現象学」, 「混合研究法」, 「参与観察」, 「質的研究／定性的研究」, 野島一彦 (監修) 『臨床心理学中辞典』, 遠見書房, pp.110, 144-145, 159-160, 187-188, 2022

能智正博 (分担執筆), 「質的研究法」, 岩壁茂他 (編) 『臨床心理学スタンダードテキスト』, 金剛出版, pp. 217-224, 2023

能智正博 (分担執筆), 「高次脳機能障害者の理解と支援」, 中島由宇・沖潮満里子・広津侑実子 (編) 『これからの障害心理学——〈わたし〉と〈社会〉を問う』, 有斐閣, pp.159-176, 2023

〈学術論文〉

江刺香奈・堀内多恵・若子静保・新井素子・太齋慧・

福田聖・能智正博 (共著), 「レトリックとしてのコロナ禍(1)——為政者の発言の分析から」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 第45巻, 2022, pp.19-26.

福田聖・新井素子・太齋慧・堀内多恵・江刺香奈・若子静保・能智正博 (共著), 「レトリックとしてのコロナ禍(2)——一般の人々の詩歌の分析から」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 第45巻, 2022, pp. 27-34.

Kasai, K., Yagishita, S., Tanaka, S., Koike, S., Murai, T., Nishida, A., Yamasaki, S., Ando, S., Kawakami, N., Kanehara, A., Morita, K., Kumakura, Y., Takahashi, Y., Sawai, Y., Uno, A., Sakakibara, E., Okada, N., Okamoto, Y., Nochi, M., Kumagaya, S., & Fukuda, M. (共著) Personalized values in life as point of interaction with the world: developmental/neurobehavioral basis and implications for psychiatry. *Psychiatry & Clinical Neurosciences Reports*, 2022, 1: e12. [査読有]

金智慧・能智正博 (共著), 「女性バイセクシュアルを生きる——当事者同士の語り合いの質的検討から」, 『質的心理学研究』, 第22巻, 2023, pp. 296-313. [査読有]

〈学会発表〉

長崎勤・渡辺弥生・佐竹真次・能智正博・田島信元・石隈利紀, 「公認心理師における『教育・発達』的観点の意義と可能性——その4:感情・社会性の発達と教育・支援の展望」, 日本発達心理学会第34回大会プレ・カンファレンス, オンライン2023, 2月

古川恵美・石崎優子・池田友美・鯉坂誠之・福地成・中村恵・信迫悟志・柘植雅義・能智正博, 「発達障害のある子どもの養親を対象としたペアレント・トレーニングの開発」, 虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会, 福岡. 2022, 12月

梶原佐保・能智正博, 「重度障害児・者とのコミュニケーション——水泳サークル活動のフィールドワークによる検討——」, 日本質的心理学会第19回大会, 名古屋. 2022, 10月

福田聖・堀内多恵・新井素子・江刺加奈・太齋慧・若子静保・能智正博, 「メタファーとしてのCOVID-19——メディアに現れた表現のディスコース分析から」, 日本質的心理学会第19回大会, 名古屋. 2022, 10月

能智正博・小川明・小林隆司・藤田真樹・増田司・長谷川幹, 「脳損傷後の主体性——その測定方法と

探索的な検討」, 日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会第11回大会, オンライン, 2022, 6月

〈講演・講座〉

能智正博 (講師), 「現代の日本文化のなかでのパレ教授のアプローチの意義」, NPACC デビッド・パレ著『協働するカウンセリングと心理療法』出版記念シンポジウム, オンライン, 2022, 5月

能智正博 (話題提供者), 「困難な時代におけるナラティブ実践 —言葉の失う人々との間で— “ナラティブ・アプローチと失語症のケースをめぐる”」, 森岡正芳・児島達美 (企画), 遠見書房オンライン・シンポジウム, 2022, 5月

能智正博 (企画・司会)・後藤博・飯田一昌・名和由理, 「基調報告: 私にとっての『生き生きと生きる心と身体』」, 日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会第11回大会, オンライン, 2022, 6月

能智正博 (講師), 「障害者虐待の理解と対応」, 社会福祉法人泉会2022年度理念研修, 2022, 7月

能智正博 (講師), 「質的研究入門——ナラティブの重要性」, 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」東京大学職域・地域架橋型「価値に基づく支援者育成」C-1 職域架橋連携コース, 2022, 11月

能智正博 (講師), 「質的研究・インタビュー分析」, 第5回野外教育学会研究集会「この研究, 実際どうやるの? 研究方法の実際」, 2023, 1月

能智正博 (話題提供者)・大橋靖史・抱井尚子, 「APAMニュアルにみる質的研究評価の視点と研究の最前線」, 日本社会心理学会2022年度第10回春の方法論セミナー, 2023, 3月

〈その他〉

能智正博 (単著), 「カウンセリングの実践を言葉にすること」, 『臨床心理学』, 第22巻第4号, 2022, p.526

能智正博 (単著), 「第11回東京全国大会生き生きと生きる身体と心」, 『けあ・こみニュース』, 第11号, 2022, p.1

能智正博 (単著), 「人間はなぜ (部歌を) 歌うのか」, 『赤門合気道』, 第63巻, 2022, pp. 37-38,

能智正博 (単著), 「第11回東京全国大会を終えて」, 『けあ・こみニュース』, 第12号, 2022, p.1

高橋美保 (教授)

〈著書〉

高橋美保 (単著), 『心理職の学びとライフキャリア——働くことと生きること』東京大学出版会, 2022, 総頁数294.

高橋美保 (分担執筆), 「産業分野における家族支援に関わる制度」, 日本家族心理 (編), 『産業分野に活かすこと家族を支える心理療法』金子書房, 2022, pp.22-31.

高橋美保 (分担執筆), 「産業カウンセリング」, 野島一彦 (監修), 『臨床心理学中事典』遠見書房, 2022, pp.159-159.

高橋美保 (分担執筆), 「トータル・ヘルス・プロモーション・プラン」, 野島一彦 (監修), 『臨床心理学中事典』遠見書房, 2022, pp.327-328.

〈雑誌論文〉

高橋美保 (共著), 「内観研修所における内観および研修所運営の実態——日本内観研修所協会調査から——」(李曉茹氏との共著), 『内観研究』, 28, 2022, pp.67-80.

高橋美保 (共著), 「通話とビデオ通話を用いた心理支援における通信形式の変更プロセスの質的検討」(三枝弘幸氏・千葉一輝氏・原田陸氏との共著), 『対人援助学研究』, 12, 2022, pp.100-114.

Miho Takahashi(Co-Author). Effects of work-family life support program on the work-family interface and mental health among Japanese dual-earner couples with a preschool child: A randomized controlled trial, (under joint authorship with Akihito Shimazu, Takeo Fujiwara, Noboru Iwata, Yoko Kato, Norito Kawakami, Nobuaki Maegawa, Mutsuhiro Nakao, Tetsuo Nomiyama, Jun Tayama, Izumi Watai, Makiko Arima, Tomoko Hasegawa, Ko Matsudaira, Yutaka Matsuyama, Yoshimi Miyazawa, Kyoko Shimada, Masaya Takahashi, Mayumi Watanabe, Astushige Yamaguchi, Madoka Adachi, Makiko Tomida, Di Chen, Satomi Doi, Sachiko Hirano, Sanae Isokawa, Tomoko Kamijo, Toshio Kobayashi, Kichinosuke Matsuzaki, Naoko Moridaira, Yukari Nitto, Sayaka Ogawa, Mariko Sakurai, Natsu Sasaki, Mutsuko Tobayama, Kanako Yamauchi, Erika Obikane, Miyuki Odawara, Mariko Sakka, Kazuki Takeuchi, Masahito

Tokita), Journal of Occupational Health, 2023, pp.65-1.

高橋美保（共著）. ウィズコロナ時代の大学教育とは——コミュニティ心理学から考える——（山上史野氏・永井暁行氏・林幸史氏・水野治久氏・木村真人氏との共著）コミュニティ心理学研究, 26, 2022, pp.118-129.

高橋美保（共著）. 内観研修所における集中内観の紹介（清水康弘氏・平山恵美子氏・真栄城輝明氏との共著）, 内観研究, 28, 2022, pp.27-44.

高橋美保（共著）. “メンタルヘルス・スラング”を自称使用することの効果に関する探索的検討（山田詢介氏・山口友菜氏・中山莉子氏との共著）, 東京大学大学院臨床心理学コース紀要, 46, 2023, pp.23-31.

高橋美保（共著）. “なぜ加害—被害関係が発生し維持されるのか——様々な対人関係における攻撃行為の発生と深刻化の要因に関する文献研究——”（山口友菜氏・鳥羽翔太氏・山田詢介氏・藤沢祐未氏との共著）, 東京大学大学院臨床心理学コース紀要, 46, 2023, pp.32-39.

高橋美保（共著）. 産業領域の心理支援の現状と課題——臨床心理学からみたCOVID-19以降の働き方の変化について——（猪股和佳奈氏・安藤令奈氏・藤沢祐未氏との共著）, 東京大学大学院臨床心理学コース紀要, 46, 2023, pp.40-47.

高橋美保（共著）. コロナ（COVID-19）禍での労働者のリモートワークと心理特性の関係の質的検討（安藤令奈氏・猪股和佳奈氏・和智遥香氏との共著）, 東京大学大学院臨床心理学コース紀要, 46, 2023, pp.48-55.

高橋美保（共著）. 福祉業界の労働者の離職理由に関する文献研究（伴恵理子氏・植竹智香氏・野村佳申氏との共著）, 東京大学大学院臨床心理学コース紀要, 46, 2023, pp.56-63.

〈学会発表〉

高橋美保（ポスター）. 失業者の心理的ストレス尺度の開発——COVID-19下の失業者を対象として—— 日本心理学会, 2022.

高橋美保（口頭）. コロナ禍が生活困窮者の精神健康に及ぼす影響とその要因 日本産業ストレス学会, 2022.

玉置勝司・高橋美保・島田淳・仲井太心・渡辺秀司・和智遥香・中山奈緒子（口頭）. 咬合違和感症候群（Occlusal discomfort syndrome）患者アセ

スメント・シートの紹介 日本補綴歯科学会西関東支部会, 2023.

和智遥香・中山奈緒子・島田淳・高橋美保・玉置勝司（口頭）. 顎咬合機能回復歯科治療に対する満足感と期待——今後の歯科医療教育に向けて—— 神奈川歯科大学学会総会 2022.

和智遥香・中山奈緒子・高橋美保・島田淳・玉置勝司（口頭）. 歯科教育に国民は何を求めているのか 日本補綴歯科学会, 2022.

〈シンポジウム〉

高橋美保（司会）. 日本臨床心理士養成大学院協議会 “コロナ禍における臨床心理実践教育の現状と今後の課題” 2022.

高橋美保（指定討論者）. 日本コミュニティ心理学会 “コミュニティのなかで多職種連携をいかに学ぶのか” 2022.

高橋美保（指定討論者）. 講演の表題 日本心理臨床学会自主シンポジウム “家族・集団・地域への心理臨床活動のコンピテンシーを共有する——コミュニティの視点から——” 2022.

高橋美保（講師）. 第2回OTD企業研究会 “企業組織のダイバーシティとジェンダー平等——コミュニティ心理学とライフキャリアの視点から” 2022.

高橋美保（コーディネーター）. 第9回日本内観学会主催内観研修会 日本内観療法学会 “内観研修所における集中内観の実際” 2022.

高橋美保（講師）. 第3回口腔心身リエゾン懇話会 “歯科医療に活かす臨床心理学” 2022.

高橋美保（講師）. 2022PSEセミナー “日本の歯科治療に対する国民の満足度に関するアンケート調査結果——歯科医療現場に活かす対人援助の基礎” 2022.

高橋美保（講師）. 凸版印刷株式会社 人事労政本部 ダイバーシティ推進室 はぐくみサークル ランチタイムミニセミナー “働くパパママのためのライフキャリアレジリエンスプログラム”, 2022.

滝 沢 龍（准教授）

〈著書〉

滝沢龍（編著）『現代の臨床心理学 2 臨床心理アセスメント』（松田修氏との共編）, 東京大学出版会, 2022, 総頁数.316.

滝沢龍（共著）, 「生物・心理・社会モデルの意義」（松田修氏との共著）, 『現代の臨床心理学 2 臨床心理

- アセスメント』 東京大学出版会, 2022, pp.3-10.
- 滝沢龍 (共著), 「アセスメントの目的と方法」(松田修氏との共著), 『現代の臨床心理学 2 臨床心理アセスメント』 東京大学出版会, 2022, pp.11-25.
- 滝沢龍 (共著), ・松田修 (2022). 「ディメンショナルな視点からのアセスメント」(松田修氏との共著), 『現代の臨床心理学 2 臨床心理アセスメント』 東京大学出版会, 2022, pp.29-40.
- 滝沢龍 (単著), 「抑うつ」, 『現代の臨床心理学 2 臨床心理アセスメント』 東京大学出版会, 2022, pp.41-52.
- 滝沢龍 (共著), 「テストバッテリの考え方と組み方」(松田修氏との共著), 『現代の臨床心理学 2 臨床心理アセスメント』 東京大学出版会, 2022, pp.149-159.
- 滝沢龍 (共著), 「フィードバックの考え方と伝え方」(松田修氏との共著), 『現代の臨床心理学 2 臨床心理アセスメント』 東京大学出版会, 2022, pp.255-268.

〈雑誌論文〉

- 黒沢拓夢, 安達滉一郎, 下田茉莉子, 滝沢龍. 労働者のメンタルヘルスの現状と課題およびデジタル技術を活用した支援に関する展望. 日本労働研究雑誌. 日本労働研究雑誌. 754, 2023, 56-64.
- 橋本里奈, 高橋史也, 滝沢龍. コロナ禍におけるオンライン対人交流が主観的・客観的睡眠の質に与える影響: スマートウォッチを用いた縦断的検討. 精神医学. 65(9), 2023, 1313-1325.
- 韓曉璐, 梁嘉慧, 安達滉一郎, 下田茉莉子, 滝沢龍. レジリエンス向上を目指す心理的介入に応用されるライフスタイル介入法の現状と課題. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 46, 2023, 64-71.
- 王雨豪, 韓曉璐, 滝沢龍. いじめ被害と人格特性との関連についての時代的変遷に関する概観と今後の展望. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 46, 2023, 72-78.
- 安達滉一郎, 宇和川梨子, 青木由未加, 黒沢拓夢, 滝沢龍. 非侵襲的かつ簡便なバイオマーカーを用いた心理的介入の効果測定についての現状と展望. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 46, 2023, 79-85.
- 梁嘉慧, 日比麻記子, 滝沢龍. スキーマ療法に基づく心理教育を用いた日常的ストレス反応による悪影響の軽減および重症化予防の試み. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 46, 2023, 86-90.
- 杉江麻衣, 日比麻記子, 黒沢拓夢, 滝沢龍. メンタルヘルス問題におけるスティグマとセルフ・コンパッションの関連の検討. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 46, 2023, 91-96.
- 下田茉莉子, 宇和川梨子, 滝沢龍. 月経随伴症状に対する心理的介入の概観と展望. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 46, 2023, 97-104.
- Ihara Y, Kurosawa T, Matsumoto T, Takizawa R. The Effectiveness of Preventative Group Cognitive-Behavioral Interventions on Enhancing Work Performance-related Factors and Mental Health of Workers: A Systematic Review. Current Psychology, 42, 2023, 2797-2810.
- 滝沢龍. 人生早期ストレスの長期的な健康への影響と保護的要因: 英国の大規模出生コホート研究からの科学的エビデンス. 発達心理学研究. 33(4), 2022, 205-211.
- 出野美那子, 大久保圭介, 滝沢龍, 遠藤利彦. 児童期後期から青年期後期における肯定的再評価と感情にまつわる話合い: コホート系列デザインによる10年の縦断的関連. 発達心理学研究. 33(4), 2022, 378-390.
- 太田一実, 滝沢龍. 高齢者・認知症ケアへのコミュニケーションロボットの活用. 心理学評論. 65(4), 2022, 395-413.
- 下田茉莉子, 梁嘉慧, 宇和川梨子, 日比麻記子, 滝沢龍. 月経周期に伴う心身の状態変化を把握するバイオマーカー研究の概観. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 62, 2022, 335-347.
- 宇和川梨子, 安達滉一郎, 滝沢龍. 反応的攻撃性の研究の概観と今後の展望 ―感情制御に着目して―. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 62, 2022, 271-279.
- 黒沢拓夢, 杉江麻衣, 安達滉一郎, 滝沢龍. セルフ・コンパッションを臨床応用したオンライン介入の研究動向と課題. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 62, 2022, 237-247.
- 青木由未加, 滝沢龍. 若者ケアラーに関する研究の現状と展望: 若者ケアラー特有の孤立感に着目して. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 62, 2022, 281-289.

梁嘉慧, 下田茉莉子, 滝沢龍. 抑うつ症状における内受容感覚とトラウマティックストレスの関連の予備的検討. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 62, 2022, 429-435.

日比麻記子, 下田茉莉子, 滝沢龍. 対人的逆境体験を持つ成人のメンタルヘルスサービス利用に影響を与える要因の概観. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 62, 2022, 561-570.

韓曉璐, 滝沢龍. 成人における心のレジリエンスの効果的要因と理論的枠組みについての検討 —応用場面別のレジリエンス向上法のレビュー—. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 62, 2022, 75-90.

韓曉璐, 大賀真伊, 東菜摘子, 滝沢龍. 「心のレジリエンス」を向上させる可能性についての検討 —概念と影響因子から—. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 45, 2022, 68-75.

菅原伶奈, 東菜摘子, 大賀真伊, 滝沢龍. 子ども期の逆境体験に対する保護的体験についての研究の現状と展望. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 45, 2022, 61-67.

横須賀咲紀, 黒沢拓夢, 石川智子, 高橋史也, 安達滉一郎, 太田一実, 滝沢龍. 大学生の課外活動がメンタルヘルスに与える影響 —国内外の研究の概観—. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要. 45, 2022, 76-83.

石川恵太, 東菜摘子, 大賀真伊, 滝沢龍. 親の小児期逆境体験が次世代の精神病理に与える影響に関する研究の現状と課題. 発達心理学研究. 33, 2022, 89-103.

高橋史也, 橋本里奈, 安達滉一郎, 黒沢拓夢, 太田一実, 滝沢龍. デジタルバイオマーカーを用いたメンタルヘルス研究の現状と展望. 精神医学, 64(3), 2022, 357-368.

滝沢龍. 人生早期ストレスによる健康への長期的リスクとレジリエンス. 『第48回日本神経内分泌学会』, シンポジウム「サイエンスは脳とこころのどこにまで迫れるか」. 2022. (学会発表・招待講演)

橋本里奈, 高橋史也, 滝沢龍. コロナ禍における対人関係とFitbit SenseTMによる客観的睡眠評価との縦断的検討. 『第14回ITヘルスケア学会学術大会』オンライン. 2022. (学会発表・口演)

Adachi, K., Uwagawa, R., Aoki, Y., Kurosawa, T., Takizawa, R. Effect of 12-week online mindfulness-based meditation intervention

program on autonomic nerve function by pupillary response: a randomized controlled trial. 22nd WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand. 2022. (Conference Presentation)

Kurosawa, T., Shimoda, M., Takizawa, R. Longitudinal association between work performance and cognitive emotion regulation: a 3-month follow-up study. 22th WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand. 2022. (Conference Presentation)

Uwagawa, R., Takizawa, R. Moderation effect of uncertainty on the relationship between internal-other- consciousness and interpersonal alienation. 22th WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand. 2022. (Conference Presentation)

Aoki, Y., Adachi, K., Uwagawa, R., Kurosawa, T., Takizawa, R. Sleep quality as a behavioral indicator and 12-week online mindfulness-based meditation intervention: a randomized controlled trial. 22th WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand. 2022. (Conference Presentation)

Uwagawa, R., Adachi, K., Aoki, Y., Kurosawa, T., Takizawa, R. Effect of brief mindfulness-based meditation intervention on anxiety, relaxation, and emotion: a randomized controlled trial. 22th WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand. 2022. (Conference Presentation)

野中舞子(講師)

〈著書〉

野中舞子(共著). 『臨床実習と現場研修』, 松見淳子・原田隆之(編) 臨床心理学 専門職の基盤, 東京大学出版会, 2023, pp.269-286.

〈雑誌論文〉

Kuroda M, Kawakubo Y, Kamio Y, Yamasue H, Kono T, Nonaka M, Matsuda N, Kataoka M, Wakabayashi A, Yokoyama K, Kano Y, Kuwabara H (2022). Preliminary efficacy of cognitive-behavioral therapy on emotion regulation in adults with autism spectrum disorder: A pilot randomized waitlist-

- controlled study. *PLoS One*. 23;17(11), e0277398.
- 野中舞子・金生由紀子（共著）,「こだわりが強い・変化が苦手」,『小児科』第63号, 2022, pp.1245-1249.
- 野中舞子（単著）「書評 公認心理師のための「心理支援」講義」『精神療法』第49号, 2023, pp. 126-127
- 徳永茜子・高堰仁美・平中航也・大橋英永・石川千春・野中舞子.「感覚の鈍感性と心理社会的困難の関連性についての検討—評価方法に着目した文献レビューを通して—」『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』第46号, 2023, pp. 105-112.
- 邱冠寧・柳百合子・北原祐理・内村慶士・野中舞子.「スクールカウンセラーの多職種連携及び協働における課題と展望—日本と台湾の支援システムの比較を通して—」『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 第46号, 2023, pp.113-120.
- 野中舞子・下山晴彦（学会発表）「幼少期の強迫症状及びこだわりに対するオンライン認知行動療法プログラムの開発と効果の予備的検討」日本認知行動療法学会第48回大会, 2022.
- 山本義春（教授）
〈論文〉
- Qian, K., B. Hu, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. The voice of the body: Why AI should listen to it and an archive. *Cyborg and Bionic Systems* 4: 5-1-3, 2023.
- Wang, Z., K. Qian, H. Liu, B. Hu, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Exploring interpretable representations for heart sound abnormality detection. *Biomedical Signal Processing and Control* 82: 104569: 1-12, 2023.
- Takeuchi, H., K. Suwa, A. Kishi, T. Nakamura, K. Yoshiuchi, and Y. Yamamoto. The effects of objective push-type sleep feedback on habitual sleep behavior and momentary symptoms in daily life: Mobile health intervention trial using a healthcare Internet of Things system. *JMIR Mhealth Uhealth* 10: e39150-1-19, 2022.
- Hirose, M., T. Nakamura, A. Watanabe, Y. Esaki, S. Koike, Y. Yamamoto, N. Iwata, and T. Kitajima. Altered distribution of resting periods of daily locomotor activity in patients with delayed sleep phase disorder. *Frontiers in Psychiatry* 13: 933690-1-9, 2022.
- Ren, Z., K. Qian, F. Dong, Z. Dai, W. Nejdil, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. Deep attention-based neural networks for explainable heart sound classification. *Machine Learning with Applications* 9: 100322-1-9, 2022.
- Qian, K., T. Koike, T. Nakamura, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Learning multimodal representations for Drowsiness detection. *IEEE Transactions on Intelligent Transportation Systems* 23: 11539-11548, 2022.
- Wang, Z., Z. Bao, K. Qian, B. Hu, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Learning optimal time-frequency representations for heart sound: A comparative study. *Proceedings of the 9th Conference on Sound and Music Technology*, Springer Nature Singapore, pp. 93-104, 2023.
- Hu, B., K. Qian, Q. Dong, Y. Luo, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. Psychological field versus physiological field: From qualitative analysis to quantitative modeling of the mental status. *IEEE Transactions on Computational Social Systems* 9: 1275-1281, 2022.
- Qiu, W., K. Qian, Z. Wang, Y. Chang, Z. Bao, B. Hu, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. A federated learning paradigm for heart sound classification. In: *Proceedings of 44th Annual International Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2022)*, pp. 1045-1048, 2022.
- Zhu, L., K. Qian, Z. Wang, B. Hu, Y. Yamamoto, and B. W. Schuller. Heart sound classification based on residual shrinkage networks. In: *Proceedings of 44th Annual International Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2022)*, pp. 4469-4472, 2022.
- 佐々木 司（教授）
〈著書〉
- 佐々木司（編著）(2023) 人体の構造と機能および疾病（公認心理師ベーシック講座）. 講談社（東京）.

〈査読付き論文〉

Zhou R, Foo JC, Yamaguchi S, Nishida A, Ogawa S, Usami S, Togo F, Sasaki T. (2022) The longitudinal relationship between sleep length and psychotic-like experiences in adolescents. *Psychiatry Research* 317:114893. doi: 10.1016/j.psychres.2022.114893. Epub 2022 Oct 10.

Kushima I,Sasaki T, (2022) Cross-disorder analysis of genic and regulatory copy number variations in bipolar disorder, schizophrenia, and autism spectrum disorder. *Biological Psychiatry* 92: 362-374. doi: 10.1016/j.biopsych.2022.04.003.

Kusaka S, Yamaguchi S, Foo JC, Togo F, Sasaki T. (2022) Mental health literacy programs for parents of adolescents: A systematic review. *Frontiers in Psychiatry* 3: 816508. doi: 10.3389/fpsyt.2022.816508. eCollection 2022.

松隈誠矢, 山口智史, 西田明日香, 日下桜子, 小塩靖崇, 東郷史治, 佐々木司. (2022) 教員実施の短時間型精神保健リテラシープログラムを1学年357名に一斉授業した時の効果の検証, 学校保健研究 63: 233-242.

〈依頼原稿等〉

佐々木司 (2022) 学校での精神保健教育はヤングケアラーの理解と支援に役立つか? 現代思想 150-14: 106-116.

佐々木司, 大澤功, 鈴江毅, 宮井信行 (2022) 論文が採択されるための条件(5): 緒言 (イントロダクション) の書き方. 学校保健研究 64: 259-261.

佐々木司, 大澤功, 鈴江毅, 宮井信行 (2022) 論文が採択されるための条件(4): 考察の書き方. 学校保健研究 64: 155-157.

佐々木司 (2022) 「メンタルヘルシリテラシー」向上のために. (特集1. 子どものメンタルヘルス) 都市問題 133(2): 17-21.

佐々木司, 大澤功, 鈴江毅, 宮井信行 (2022) 論文が採択されるための条件(3): 統計解析での基本的注意. 学校保健研究 63: 261-262.

多賀 徹太郎 (教授)

〈論文〉

D. Tsuzuki, G. Taga, H. Watanabe, F. Homae: Individual variability in the nonlinear development of the corpus callosum during infancy and toddlerhood: A longitudinal MRI analysis, *Brain Structure and*

Function 227, 1995-2013, 2022

Y. Shinya, K. Oku, H. Watanabe, G. Taga, S. Fujii: Predictive regulation of cardiovascular system on emergence of auditor-motor interaction in young infants. *Experimental Brain Research* 240, 1661-1671, 2022

R. Fujihira, G. Taga: Dynamical systems model of development of the action differentiation in early infancy: a requisite of physical agency. *Biological Cybernetics* 117, 81-93, 2023

〈その他〉

Shiraki Anna, Hiroyuki Kidokoro, Hama Watanabe, Gentaro Taga et al. Sleep-state-dependent and region-specific development of functional connectivity in preterm infants. *Pediatric Academic Societies meeting*, Online, Apr 21-25, 2022

Gentaro Taga: A model for subplate-mediated formation of long association fibers in human fetal cortex. *Neuro2022*, Okinawa, June 30, 2022

Gentaro Taga: From geometry to network to behavior in early brain development. *Perinatal, Preterm and Paediatric Image Analysis (PIPPI)*. Online, Sep. 18, 2022 (invited)

Gentaro Taga: Neurovascular and glymphatic dynamics of the developing brain during sleep. *International Society on Oxygen Transport to Tissue*, Ascona, Switzerland, Sep. 21, 2022 (invited)

Ryo Fujihira and Gentaro Taga: Dynamical systems model of embodied memory in early human infancy. *Society for Neuroscience*, San Diego, USA, Nov 12-16, 2022

Hiroyuki Kidokoro, Shiraki Anna, Hama Watanabe, Gentaro Taga et al.: Sleep-state-dependent functional connectivity in healthy-term infants. *14th International Newborn Brain Conference*, Florida, USA, Feb. 8-11, 2023

Shiraki Anna, Hiroyuki Kidokoro, Hama Watanabe, Gentaro Taga et al.: Periodic breathing distorts functional connectivity analysis. *14th International Newborn Brain Conference*, Florida, USA, Feb. 8-11, 2023

多賀徹太郎: 機能的な脳発達の見点から考える赤ちゃん共生, 日本赤ちゃん学会第22回学術集会, 宇都宮, 2022.7.2 (招待)

多賀徹太郎: ヒトの脳機能発達のメカニズム, 第58回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2022.7.11 (教育講演)

多賀徹太郎, 渡辺 はま: 多波長NIRSによる脳組織酸素化・代謝・流体輸送のダイナミクスの分析,

第24回日本光脳機能イメージング学会学術大会,
東京, 2022.7.16

多賀巖太郎: 生理学研究所2022研究会「自発活動と
形態形成から紐解く胎児脳発達メカニズムの解
明」代表者 オンライン, 2022.10.21-22

野 崎 大 地 (教授)

〈論文〉

Takarada Y, Nozaki D (2022) Shouting strengthens
voluntary force during sustained maximal effort
through enhancement of motor system state via motor
commands. *Scientific Reports* 12:16182

Rannaud Monany D, Barbiero M, Lebon F, Babic J,
Blohm G, Nozaki D, White O (2022) Motor imagery
helps updating internal models during microgravity
exposure. *Journal of Neurophysiology* 127:434-443

〈国際学会〉

Kobayashi T, Nozaki D. "Effects of task-irrelevant
visual feedback on motor adaptation in a bimanual
redundant motor task." Society for the Neural Control
of Movement, July 25-29, 2022.

Makino Y., Inoue K., Kobayashi T., Nozaki D., "Influence
of implicit and explicit feedback response to a visual
error on visuomotor learning response.", Society for
the Neural Control of Movement, July 24-29, 2022.

Makino Y., Koide S., Kobayashi T., Nozaki D. "Visuomotor
learning response modulated with the sensory prediction
error rather than feedback response and target error.",
Mechanism of Brain and Mind 2023, January 5-7, 2023

Makino Y., Masuda N., Nozaki D. "Differential visuomotor
feedback response and learning response between
the dominant and non-dominant arm." The 8th CiNet
Conference - Beyond Motor Control: Bridging the gap
between action and perception-, March 7-9, 2023.

Kobayashi T, Nozaki D. "Rapid movement corrections
in a bimanual stick-manipulating task." The 8th CiNet
Conference - Beyond Motor Control: Bridging the gap
between action and perception -, March 7-9, 2023.

〈国内学会〉

小林稔季, 野崎大地, 「課題の成否に関与しない視覚
フィードバックが引き起こす動作変化応答」, 第
16回 Motor Control研究会, 2022年 8 月25日-27日.

村井亮介, 萩生翔大, 野崎大地, 「閉ループ筋電気
刺激外乱システムを用いた直立姿勢制御系の新奇
身体ダイナミクスへの適応動態の解明」, 第16回

Motor Control研究会, 2022年 8 月25日-27日.

岡田征剛, 野崎大地, 「運動量モデルに基づいた予
測が衝撃力の知覚に与える影響」, 第16回 Motor
Control研究会, 2022年 8 月25日-27日.

原基, 武見充晃, 野崎大地, 「ヒトの巧緻性運動を
対象とした VR-TMS システムの開発」, 第16回
Motor Control研究会, 2022年 8 月25日-27日.

牧野勇登, 井上慶秀, 小林稔季, 野崎大地, 「意識
的なフィードバック 応答が無意識的な運動学習
応答にもたらす効果」, 第16回 Motor Control研
究会, 2022年 8 月25日-27日.

〈その他〉

Kobayashi T, NCM Scholarship Winner, Society for the
Neural Control of Movement, July, 2022.

小林稔季, MC16人気発表賞, 第16回 Motor Control
研究会, 2022年 8 月.

岡田征剛, MC16若手奨励賞, 第16回 Motor Control
研究会, 2023年 8 月.

東 郷 史 治 (教授)

〈雑誌論文〉

Togo F, Yoshizaki T, Komatsu T. (共著) 「Interactive
effects of job stressor and chronotype on depressive
symptoms in day shift and rotating shift workers」,
『*Journal of Affective Disorders Reports*』, 9,
pp.100352, 2022.

Zhou R, Foo JC, Yamaguchi S, Nishida A, Ogawa S,
Usami S, Togo F, Sasaki T. (共著) 「The longitudinal
relationship between sleep length and psychotic-like
experiences in adolescents」, 『*Psychiatry Research*』,
317, pp.114893, 2022.

Kusaka S, Yamaguchi S, Foo JC, Togo F, Sasaki T. (共著)
「Mental health literacy programs for parents of adolescents:
A systematic review」, 『*Frontiers in Psychiatry*』, 13,
pp.816508, 2022.

松隈誠矢, 山口智史, 西田明日香, 日下桜子, 小塩
靖崇, 東郷史治, 佐々木司. (共著) 「高校生357
名を対象とした1学年一斉授業による教員実施の
メンタルヘルスリタラシー教育の効果検証」, 『学
校保健研究』, 63, pp.233-242, 2022.

森 田 賢 治 (准教授)

〈雑誌論文〉

Kenji Morita, Kanji Shimomura, & Yasuo Kawaguchi.
Opponent learning with different representations

in the cortico-basal ganglia circuits. *eNeuro* 10(1) ENEURO.0422-22.2023 (2023)

Ayaka Kato, Kanji Shimomura, Dimitri Ognibene, Muhammad A. Parvaz, Laura A. Berner, Kenji Morita, & Vincenzo G. Fiore. Computational models of behavioral addictions: State of the art and future directions. *Addictive Behaviors* 140: 107595 (2023)

Sanghun Im, Yoshifumi Ueta, Takeshi Otsuka, Mieko Morishima, Mohammed Youssef, Yasuharu Hirai, Kenta Kobayashi, Ryosuke Kaneko, Kenji Morita, & Yasuo Kawaguchi. Corticocortical innervation subtypes of layer 5 intratelencephalic cells in the murine secondary motor cortex. *Cerebral Cortex* 33(1): 50-67 (2023)

Kenji Morita & Ayaka Kato. Dopamine ramps for accurate value learning under uncertainty. (Spotlight) *Trends in Neurosciences* 45(4): 254-256 (2022)

加藤郁佳, 下村寛治, 森田賢治. 強化学習を用いた依存症の計算論的精神医学研究. *日本神経回路学会誌* 29巻2号 p.52-64 (2022)

渡辺 は ま (特任准教授)

〈雑誌論文〉

Shinya, Y., Oku, K., Watanabe, H., Taga, G., & Fujii, S. Anticipatory regulation of cardiovascular system on the emergence of auditory-motor interaction in young infants. *Experimental Brain Research*, 2022, 240, 1661-1671.

Tsuzuki, D., Taga, G., Watanabe, H., & Homae, F. Individual variability in the nonlinear development of the corpus callosum during infancy and toddlerhood: a longitudinal MRI analysis. *Brain Structure and Function*, 2022, 227(6), 1995-2013.

教職開発コース

藤江 康彦 (教授)

〈著書〉

藤江康彦 (単著), 「教師にとっての実践記録の意味」 日本教育方法学会 (編) 『教育方法51教師の自律性と教育方法』, 図書文化, 2022, pp.150-162, 総頁数184.

〈講演等〉

藤江康彦 (招待講演), 「子どもの実践、教師の実践: 学習環境デザインとしての授業」, フレネ教育研

究会第61回夏季全国大会 (オンライン), 2022年8月.

藤江康彦 (企画・司会・指定討論) 「課題研究 I 教育方法学者はなぜ授業を研究するのか: 教育方法学における知のありかた」 (草原 和博氏と共同企画, 登壇者: 川口 広美氏, 坂本 将暢氏), 日本教育方法学会第58回大会 (於: 山口大学, 山口市), 2022年10月.

一 柳 智 紀 (准教授)

〈雑誌論文〉

一柳智紀 (単著) 「グループでの学習時における教師の即興的思考の特徴: 授業後の半構造化面接における語りの質的分析」『質的心理学研究』第22号, 日本質的心理学会, 2023, pp.123-144

学校開発政策コース

勝野 正章 (教授)

〈著書〉

〈共著〉

勝野正章・庄井良信 『問いからはじめる教育学 (改訂版)』 有斐閣, 2022年, 総頁数191.

〈分担執筆〉

Katsuno, M. (2022). Will Japan's High-Performing Education System Be Refreshed or Wither? An Exploration of Official Pedagogic Discourse. In: Lee, W.O., Brown, P., Goodwin, A.L., Green, A. (eds) *International Handbook on Education Development in Asia-Pacific*. Springer, Singapore.

〈雑誌論文〉

勝野正章 「子どもの権利保障と学校教育—教育行政の課題」『学術の動向』 Vol.27, No.6, 2022, pp. 33-35.

山下晃一・高野和子・清田夏代・勝野正章 「英国における“学校分権型教員人事”の生成過程と今日的展開—広域教員人事による集権の問題解決との相違を念頭に—」 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要, Vol. 16, No.2, 2023, pp. 41-55.

〈学会発表〉

Katsuno, M. Teacher culture and policies in Japan, *East Asia Education Research Colloquium*, ソウル大学教育研究所 (オンライン), November 25, 2022.

〈その他〉

勝野正章・窪田眞二・今野健一・中嶋哲彦・世取山洋介 (編集委員) 『教育小六法2023』 学陽書房,

2022, 総頁数1456.

村 上 祐 介 (教授)

〈著書〉

青木栄一・川上泰彦 (編著), 『教育の行政・政治・経営 (改訂版)』, 放送大学教育振興会, 2023, 総頁数300. (第2, 3, 12, 13, 14章を分担執筆)

〈学会発表〉

村上祐介「コロナ禍からみえる地方教育行政制度の課題」, 日本教育行政学会課題研究「緊急事態に直面する教育行政・教育行政学の課題(2)—新型コロナ禍に見る教育統治・領域間行政—」, オンライン, 2022年8月12日

〈その他〉

村上祐介「コロナ禍からみえる地方教育行政制度の課題」, 『日本教育行政学会年報』第48号, 2022, pp.192-195

村上祐介「図書紹介・荒井文昭『教育の自律性と教育政治』」, 『教育学研究』89巻2号, 2022, pp.321-322

橋 野 晶 寛 (准教授)

〈論文〉

橋野晶寛 (2022), 「教育政策分野における知識の政治の研究序説—今後の研究に向けての論点整理—」『教育行政学論叢』42号, 89-100頁

橋野晶寛 (2022), 「教員人材の質的確保に関する政策研究の予備的考察—現状把握と展望—」『教育行政学論叢』42号, 101-116頁.

〈その他〉

橋野晶寛, (2023)「書評 山下絢著『学校選択制の政策評価: 教育における選択と競争の魅惑』」『教育社会学研究』第111集, 107-108頁.

橋野晶寛, 「教員人材の質的確保に関する実証分析—質の多元性と政策的要因に着目して—」日本教育行政学会第57回大会 (学会発表)

Hashino, Akihiro (2023) "A Semiparametric Regression Model Applicable to Causal Inference in Various Educational Research Data: Extension of Identification via Heteroskedasticity," Working Paper.

学校教育高度化・効果検証センター

北 村 友 人 (教授)

〈著書〉

Nobuko Kayashima, Kazuo Kuroda and Yuto Kitamura (共編著) Japan's International Cooperation in Education: History and Prospects, Singapore: Springer, 2022, 365p.

Jing Liu, Yuto Kitamura and Moon Suk Hong (共著) Education in East Asia: Changing School Education in China, Japan, and Korea" in Wolhuter, C. C. and Wiseman, A. W. (eds.). World Education Patterns in the Global North: The Ebb of Global Forces and the Flow of Contextual Imperatives. UK: Emerald Publishing Limited, 2022, pp.149-168.

Yuto Kitamura, Akemi Ashida and Takayo Ogisu (共著) "Equity, Quality, Post-Neoliberalism, and the Knowledge Society of the Future" in Lee W. O., Brown P., Goodwin A. L. and Green A. (eds.). International Handbook on Education Development in Asia-Pacific. Singapore: Springer, 2023 (online).

Yuto Kitamura and Akemi Ashida (共著) International cooperation in education through multifaceted partnerships" in Postiglione, G., Johnstone, C. and Teter, W. (eds.) Handbook of Education Policy. Cheltenham, UK: Edward Elgar, 2023, pp.229-242.

〈雑誌論文〉

北村友人 (単著) 「日本における『持続可能な開発のための教育 (ESD)』の現状と課題」『日本學報』Vol.133, 韓国日本學會, 2022年, 275-289頁.

Jing Liu, Yuto Kitamura and Tamara Savelyeva (共著) "Building an 'Ecosystem' for Transforming Higher Education Teaching and Learning for Sustainability," Asia Pacific Education Review, Vol.23, Issue 4, 2022, pp.539-542.

劉靖, 北村友人 (共著) 「中国の国境地域における『国門学校』の現状と課題—政策文書ならびに学術論文の分析にもとづく—」『境界研究』No.13, 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター, 2023年, 107-120頁.

〈その他〉

北村友人 (単著) 「文献紹介: Will Brehm and Yuto Kitamura (eds.). Memory in the Mekong: Regional Identity, Schools, and Politics in Southeast Asia」『比較教育学研究』第67号, 日本比較教育学会, 2023年, 187頁.

栗田佳代子(教授)

〈雑誌論文〉

Goichi Hagiwara, Kayoko Kurita, Satori Hachisuka, Shin'ichi Warisawa, Takehiro Iwatsuki, Fumio Mizuochi, and Mariya Yukhymenko-Lescroart, (2022) A development and preliminary validation of the brief version of the Japanese Academic and Athletic Identity Scale, *International Journal of Sports Science & Coaching*; <https://doi.org/10.1177/17479541221128954>

Goichi Hagiwara, Kayoko Kurita, Shin'ichi Warisawa, Satori Hachisuka, Jim Ueda, Kensuke Ehara, Katsuhiko Ishikawa, Kosei Inoue, Daisuke Akiyama, Masakatsu Nakada and Masafumi Fujii, (2022) Competencies That Japanese Collegiate Sports Coaches Require for Dual-Career Support for Student Athletes, *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(18), 11503; <https://doi.org/10.3390/ijerph191811503>

〈報告書その他〉

栗田佳代子(2023)「高等教育機関としての高専への感謝と期待」日本高専学会誌, 28(2), 1

栗田佳代子(2023)「大学教員の能力開発研究:ファカルティ・ディベロップメントの構造と評価」大学教育学会誌, 45(1)

〈学会等招待講演〉

栗田佳代子(2022)「教育という場づくりのアップデートはできていますか」第50回日本救急医学会, 2022.10.21, 京王プラザホテル

栗田佳代子(2022)「これからの大学で学び為に今自分ができること」桑名高校PTA講演会, 2022.11.26, 柿安シティホール

栗田佳代子(2023)「DX時代の高等教育 アクティブラーニングとポートフォリオ」QAPHE公開シンポジウム, 2023.02.07, ハリウッド大学院大学

〈講演・研修〉

Kayoko Kurita (2023)「Teaching Portfolio Chart workshop」Hong Kong Baptist University, 2023.03.29-30, オンライン

栗田佳代子(2023)「TS作成研修」北海道科学大学, 2023.03.13, オンライン

栗田佳代子(2023)「ティーチング・ステートメントの作成」南九州大学, 2023.03.07, オンライン

栗田佳代子(2023)「教育活動に向き合い立ち止まって振り返る」二松学舎大学FD研修, 2023.02.28,

二松学舎大学

栗田佳代子(2023)「教師としてどうありたいか」つくば秀英高等学校, 2023.02.25

栗田佳代子(2023)「TPチャートの作成」南山大学FD研修, 2023.02.16, オンライン

栗田佳代子(2023)「これからの大学教育・大学教員」総合研究大学院大学ブレFDプログラム, 2023.1.13, オンライン

栗田佳代子(2022)「教育者としてのあり方を見出す」山口大学共育ワークショップ2022, 2022.12.16, 山口大学

栗田佳代子(2022)「ティーチング・ステートメントの活用に向けて」北海道科学大学FD研修, 2022.12.14, オンライン

栗田佳代子(2022)「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」2022.12.3-5, 九州産業大学

栗田佳代子(2022)「学生の学びに結びつく効果的な105分授業の方法」学習院大学FD研修, 2022.11.4, オンライン

栗田佳代子(2022)「効果的なグループワークのデザインとファシリテーション」2022年度図書館職員短期研修, 2022.10.18, オンライン

栗田佳代子(2022)「TPチャートの作成」横浜商科大学, 2022.10.05, オンライン

栗田佳代子(2022)「教育者としての自身を振り返る・気づく」三重大学令和4年度全学FD, 2022.09.22, オンライン

栗田佳代子(2022)「教育活動の振り返りからの気づきを明日に活かす」神戸学院大学FDワークショップ, 2022.09.02, オンライン

栗田佳代子(2022)「東洋大学FDプログラム 学びを促す授業づくりワークショップ」東洋大学, 2022.08.29-31, 東洋大学

栗田佳代子(2022)「TPチャートを深め,さらなる活用に向けて」福岡女学院看護大学, 2022.08.16, オンライン

栗田佳代子(2022)キャリアパスとしてのこれからのアカデミア」富山大学, 2022.08.12, オンライン

栗田佳代子(2022)「ティーチング・ステートメントの作成」活水女子大学, 2022.08.10, オンライン

栗田佳代子(2022)「教育活動のリフレクション〜TPチャートの作成〜」筑波大学, 2022.07.27, 筑波大学

栗田佳代子 (2022) 「教育活動を振り返り, 教育理念を見出す・共有する」日本語教育振興協会研修, 2022.07.09, オンライン

栗田佳代子 (2022) 「TPチャート, SPチャート作成ワークショップ」桐朋教育研究所合同教職員研修, 2022.06.07, 桐朋学園

〈学会発表〉

謝昌源, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「入力速度に着目した個別最適化タイピング練習法の検討」, 日本教育工学会 2023年春季全国大会 (第42回) 講演論文集, pp.553-554, (2023, 3)

大島陽平, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「図形問題を用いた学習者の学び方に関する分析」, 日本教育工学会 2023年春季全国大会 (第42回) 講演論文集, pp.357-358, (2023, 3)

金田忠裕・栗田佳代子・北野健一「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップにおけるメンタースキルの考察 ～ナラティブ・アプローチの観点から～」日本高専学会第28回年会講演会講演概要集, pp.48-49, (2022, 9)

猪原拓朗, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「運筆方向の主観的認識歪度の指標化」, 第23回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SICE SI2022), pp.170-171, (2022, 12)

蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「高校生のオンデマンド学習時の反応動作と理解度に関する検討」, 日本教育工学会 2022年秋季全国大会 (第41回) 講演論文集, pp.407-408, (2022, 9)

大島陽平, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「授業中の教師に対する印象に影響を与える知覚的な因子の特定」, 日本教育工学会 2022年秋季全国大会 (第41回) 講演論文集, pp.197-198, (2022, 9)

谷杉洋, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「同一授業内容における教師アバターに対する印象評価の比較」, 日本教育工学会 2022年秋季全国大会 (第41回) 講演論文集, pp.59-60, (2022, 9)

瀬崎颯斗, 栗田佳代子, 蜂須賀知理, 割澤伸一, 「ブレFDにおける模擬授業の位置づけと特徴」, 日本教育工学会 2022年秋季全国大会 (第41回) 講演論文集, pp.69-70, (2022, 9)

崔錚, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「認知負荷の影響を低減したバーチャル空間への馴染み度合いと「記憶の宮殿」における記憶定着率の関連性検討」, 日本教育工学会 2022年秋季全国大会 (第41回) 講演論文集, pp.29-30, (2022, 9)

猪原拓朗, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「音響特徴量が運筆の印象形成に与える影響の評価」, 日本教育工学会 2022年秋季全国大会 (第41回) 講演論文集, pp.21-22, (2022, 9)

萩原悟一, 栗田佳代子, 蜂須賀知理, 割澤伸一, 秋山大輔, 下園博信, 「デュアルキャリア実践を支援する指導者の役割と意識に関する研究 —大学スポーツの指導者を対象とした定量的・質的研究による検討—」, 九州体育・スポーツ学会 第71回大会プログラム, p.80, (2022, 8)

佐竹望愛, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「合成視覚情報を付与した英語音声聴解学習法の検討」, 第47回 教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp.231-232, (2022, 8)

宋銘倫, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「「教え方リズム」の分析を目的とした教師の「身振り手振り」動作の定量的分析」, 第47回 教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp.87-88, (2022, 8)

崔錚, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「バーチャル空間への馴染みの度合いが記憶定着率に与える影響の検討」, 日本人間工学会 第63回大会予稿集, 1E1-4, (2022, 7)

蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「中学生におけるオンデマンド学習時の反応動作と理解度に関する検討」, 日本人間工学会 第63回大会予稿集, 1E1-3, (2022, 7)

猪原拓朗, 蜂須賀知理, 栗田佳代子, 割澤伸一, 「払いの運筆学習支援に効果的な音情報の特徴分析」, 日本人間工学会 第63回大会予稿集, 1E1-1, (2022, 7)

萩原悟一, 栗田佳代子, 蜂須賀知理, 割澤伸一, 「学生アスリートのデュアルキャリア支援に関する指導者のコンピテンシーについて」, 日本運動・スポーツ科学学会 第29回大会発表要旨収録, p.19, (2022, 6)

バリアフリー教育開発研究センター

星 加 良 司 (教授)

〈著書〉

星加良司 (共著), 『「社会」を扱う新たなモード: 「障害の社会モデル」の使い方』(飯野由里子・西倉実季氏との共著), 生活書院, 2022, 総頁数264.

飯 野 由里子 (特任准教授)

〈著書〉

飯野由里子 (共著) 『「社会」を扱う新たなモード——「障害の社会モデル」の使い方』(星加良司氏, 西倉実季氏との共著), 生活書院, 2022年, 総頁数 257.

飯野由里子 (共著) 『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』(清水晶子氏, ハン・トンヒョン氏との共著), 有斐閣, 2022年, 総頁数260.

飯野由里子 (編著) 『クィア・スタディーズをひらく 3——健康/病, 障害, 身体』(菊地夏野氏, 堀江有里氏との共編) 晃洋書房, 2023年, 総頁数 226.

〈雑誌論文〉

飯野由里子 (単著) 『「社会」は失敗し続けるのか?——障害女性と複合差別』『部落解放 830号』2022, pp. 28-36.

飯野 由里子 (共著) 「合理的配慮理解度調査から見てきたもの——研修ターゲットの特定に向けて」(平林ルミ氏との共著)『第64回総会発表論文集』日本教育心理学会, 2022, p. 311.

飯野由里子 (共著) 「学校における合理的配慮の理解と課題」(平林ルミ氏との共著)『東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター活動報告』7巻, 2023, pp. 20-34.

発達保育実践政策学センター

野 澤 祥 子 (准教授)

〈著書〉

Sachiko Nozawa and Midori Takahashi 2022 How parents and children spent time during pandemic?: Exploratory study of home activity patterns and parental mental health COVID-19 Japan. In Schutter, S., Harring, D., & Bass L.E. (Eds.) Children, Youth and Time Sociological Studies of Children and Youth Vol.30 pp. 49-68. Emerald Publishing.

秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子 (編著) 2022 ICTを使って保育を豊かにワクワクつながる&広がる28の実践 中央法規出版

野澤祥子 (訳) 2022 「保育の質」の議論を問う——この本について グニラ・ダールベリ/ピーター・モス/アラン・ペンス (著) 浅井幸子 (監訳) 保育の質を超えて: 「評価」のオルタナティブを探る pp.1-27 ミネルヴァ書房

〈雑誌論文〉

野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2023 保育・幼児教育施設における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響についての検討(3)——クライシス・リーダーシップという観点から—— 東京大学大学院教育学研究科紀要, 62

佐藤朝美・城戸楓・野澤祥子・山内祐平 2023 園と家庭のパートナーシップの関係性を再考するオンライン・ワークショップの実践と効果の検証. 日本教育工学会論文誌, 46 (Suppl.), 41-44.

Crimon, C., Barbir, M., Hagihara, H., de Araujo, E., Nozawa, S., Shinya, Y., Abboub, N., & Tsuji, S. 2022 Mask wearing in Japanese and French nursery schools: The perceived impact of masks on communication Frontiers in Psychology, 13:874264

大久保圭介・唐音啓・遠藤利彦・野澤祥子 2022 妊娠期の夫婦間の話し合い度と育児期のゲートキーピングの関連: 就業形態の組み合わせごとの検討 発達心理学研究, 2022, 33巻, 2号

小崎遼介・城戸楓・阿川勇太・小崎恭弘・上野公嗣・瀧川光治・田辺昌吾・野澤祥子 2022新型コロナウイルス感染症禍における保育の負担と子どもの人間関係の発達に対する保育者の効力感との関連——ワークモチベーションの媒介に着目して——『チャイルド・サイエンスVOL.24

〈学会発表〉

野澤祥子・滝口圭子・高橋翠・遠藤利彦・秋田喜代美 2023 1歳児クラスの子どもと保育者の関係性と発達との関連「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」から 日本発達心理学会第34回大会

江見桐子・野澤祥子・高岡純子・大久保圭介・則近千尋・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦・秋田喜代美・木村治生 2023 母親による完璧さを求めない育児や家事の重要性とその影響: 乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究 2022(1) 日本発達心理学会第34回大会

則近千尋・野澤祥子・高岡純子・大久保圭介・江見桐子・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦・秋田喜代美・木村治生 2023 きょうだい誕生に伴う子どもの非認知能力の縦断的变化: 乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究 2022(2) 日本発達心理学会第34回大会

大久保圭介・野澤祥子・高岡純子・則近千尋・江見桐子・小崎恭弘・島津明人・佐藤香・遠藤利彦・

秋田喜代美・木村治生 2023 男性の育休取得と日数が産後の夫婦関係の変化に与える影響：乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究 2022(3) 日本発達心理学会第34回大会

有間梨絵・相田紘孝・野澤祥子・浅井幸子 2022 公立保育園での探究活動の試みにおける保育者の学び—少人数グループの意義に着目して— 日本乳幼児教育学会第32回大会

野澤祥子・佐川早季子・滝口圭子・松井剛太・遠藤利彦 2022 新型コロナウイルス感染症に関わる保育・幼児教育施設の対応や影響—コロナ禍が保育にもたらした変化とは— 日本乳幼児教育学会第32回大会

滝口圭子・野澤祥子・淀川裕美・小崎恭弘・香曾我部琢・松井剛太・渡邊由恵 2022 0歳児クラスにおける保育の質の探索的検討—保育の環境と保育者のかかわりから— 日本保育学会第75回大会

〈学会シンポジウム〉

野澤祥子 2022 保育の質をいかに実証的に研究するか？～園調査の概要、及び0歳児クラス・1歳児クラスに関する結果の報告から～ 野澤祥子（企画・話題提供）淀川裕美（司会）小崎恭弘（話題提供）遠藤利彦（指定討論）増田まゆみ（指定討論）「保育の質をいかに実証的に研究するか：「保育の質と子どもの発達に関する縦断研究」から論点と可能性について考える 日本保育学会第75回大会自主シンポジウム

野澤祥子 2022 日本保育学会第75回大会自主シンポジウム「保育の質をいかに実証的に研究するか：「保育の質と子どもの発達に関する縦断研究」から論点と可能性について考える 企画趣旨・話題提供

野澤祥子 2022 日本発達心理学会第33回大会自主シンポジウム「家庭の養育環境と子どもの発達に関する縦断研究「乳幼児の生活と育ち」プロジェクトのこれまでの成果と意義を考える」企画趣旨

高橋 翠（助教）

〈雑誌論文〉

高橋翠, 「令和4年度 文部科学省委託『幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業（幼児教育施設における指導の在り方等に関する調査研究）』新型コロナウイルス感染症下における切れ目のない幼児教育に関する調査研究（新型コロナウイルス感染症下における幼児の体験を豊かにす

るICT活用に関する調査研究), 2章 (p17-28).

〈学会発表〉

高橋翠・高橋葉子・野澤祥子, 「幼児教育施設におけるジェンダーとセクシュアリティに関する実態と課題：保育者を対象としたウェブ調査の結果から」, 日本発達心理学会第34回大会, 2023.

野澤祥子・滝口圭子・高橋翠・遠藤利彦・秋田喜代美, 「1歳児クラスの子どもと保育者の関係性と発達との関連「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」から」, 日本発達心理学会第34回大会, 2023.

高橋翠, 「保育ドキュメンテーションが地域の教育コミュニティ形成に果たす役割の検討」, 日本幼児教育学会第32回大会, 2023.

西田 季里（特任助教）

〈雑誌論文〉

西田季里（単著）, 「乳児期の社会性にみる「非認知」, ミネルヴァ書房『発達』, 170号, 2022, 40-45.

西田季里・浜名真以・遠藤利彦（共著）, 「幼稚園・認定こども園における非認知能力を育む保育実践—取り組みの局面による分類—」, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第62巻, 2023, pp. 1-13.

〈学会発表〉

西田季里・遠藤利彦, 「園児の興味を見とり支えるICT活用の可能性—園児の自発的報告を記録するタブレット用アプリ実証実験—」, 日本保育学会第75回大会（オンライン開催）, 2022年5月, 口頭発表.

西田季里, 「保育者は「発達」にどう向き合っているのか：21年度Cedep文科省委託調査のヒアリングから」, 日本赤ちゃん学会第22回学術集会（於：自治医科大学）, 2022年7月, 若手研究部会企画ラウンドテーブル「「発達」について共有しよう」話題提供.

西田季里・遠藤利彦, 「非認知能力に関する園の取り組み：21年度文科省委託ヒアリング調査から」, 日本乳幼児教育学会第32回大会（オンライン開催）, 2022年12月, 口頭発表.

西田季里・則近千尋・平田悠里・浜名真以・丸山亜沙美・山西妙子・遠藤利彦, 「園児の「みて!」「きいて!」を記録するタブレット用アプリ開発と実証実験 園児の非認知能力および保育実践への効果の検証」, 日本発達心理学会第34回大会, 2023年3月, ポスター発表.

浜名真以・則近千尋・西田季里・平田悠里・利根川

明子・丸山亜沙美・山西妙子・遠藤利彦。「幼児の非認知能力尺度作成に向けた予備的検討(1)保護者評定における因子構造の分析」, 日本発達心理学会第34回大会, 2023年3月, ポスター発表。

平田悠里・浜名真以・西田季里・則近千尋・利根川明子・丸山亜沙美・山西妙子・遠藤利彦「幼児の非認知能力尺度作成に向けた予備的検討(1)保育者評定における因子構造の分析」, 日本発達心理学会第34回大会, 2023年3月, ポスター発表。

新屋裕太(特任助教)

〈著書〉

新屋裕太「第7章 胎児期の発達」, 古見文一・西尾祐美子(編)『はじめての発達心理学—発達理解への第一歩』, ナカニシヤ出版, 2022, 総頁数12。

〈雑誌論文〉

Shinya, Y., Oku, K., Watanabe, H., Taga, G., & Fujii, S. "Anticipatory regulation of cardiovascular system on the emergence of auditory-motor interaction in young infants." *Experimental Brain Research*, Vol. 240, No. 6, 2022, pp. 1661-1671.

Hagihara, H., Ishibashi, M., Moriguchi, Y., & Shinya, Y. "Object labeling activates young children's scale errors at an early stage of verb vocabulary growth." *Journal of Experimental Child Psychology*, Vol. 222, 2022.

Hagihara, H., Ishibashi, M., Moriguchi, Y., & Shinya, Y. "Data from Object Labeling Activates Young Children's Scale Errors at an Early Stage of Verb Vocabulary Growth." *Journal of Open Psychology Data*, Vol. 10, No. 1, 2022.

Shinya, Y. "How well does the General Movement Assessment predict general developmental delay in infants born very preterm/low birthweight?" *Developmental Medicine & Child Neurology*, 2022

Shinya, Y., & Ishibashi, M. "Observing effortful adults enhances not perseverative but sustained attention in infants aged 12 months." *Cognitive Development*, Vol. 64, 2022.

Crimon, C., Barbir, M., Hagihara, H., de Araujo, E., Nozawa, S., Shinya, Y., Abboub, N., & Tsuji, S. "Mask wearing in Japanese and French nursery schools: The perceived impact of masks on communication." *Frontiers in Psychology*, Vol. 13, 2022.

〈学会発表〉

新屋裕太・儀間裕貴・渡辺はま・多賀巖太郎。乳児

期早期における睡眠中の体動に伴う心拍変動。日本赤ちゃん学会第22回学術集会, 2022 (ポスター発表)

萩原広道・Barbir, Monica・Cécile Crimon・de Araujo Emma・野澤祥子・新屋裕太・Abboub Nawal・辻晶。マスク着用が保育園・こども園でのコミュニケーションに与える影響; 保育者への日仏オンライン調査をもとに。日本赤ちゃん学会第22回学術集会, 2022 (ポスター発表)

新屋裕太。赤ちゃんはなぜなくの?—ことばと社会性の発達から『泣き』の役割を考える—。同志社大学赤ちゃん学センター第13回赤ちゃん学コロキウム, 2023 (招待講演)

新屋裕太。乳児の『泣き』にみる言語・社会性発達の起源 (学会企画シンポジウム「発達カスケードの示唆: 変化と経験の 関係の非自明性」)。日本発達心理学会第34回大会, 2023 (口頭発表)

浜名真以(特任助教)

〈雑誌論文〉

浜名真以 (共著)「項目反応理論を用いた幼児および小学校低学年用短縮版感情語彙尺度の開発」(分寺杏介氏との共著), 『教育心理学研究』第71巻 第1号, 教育心理学会2023, pp.51-61.

浜名真以 (共著)「保育学生における絵本に関する知識および経験と教育実習Ⅰ (幼稚園) における読み聞かせ実践: 『保育内容 (言葉)』への活用に向けて」(上田よう子氏との共著), 『洗足論叢』第51巻, 2023, pp.201-211.

〈口頭発表〉

浜名真以「感情の言語化と感情制御: 発達の視点から」(「感情制御研究の最前線: 基礎から応用そして実践へ」にて話題提供), 第40回日本生理心理学会・日本感情心理学会第30回大会 合同大会 2022 プレカンファレンス, 2022年5月27日

大久保 圭 介(特任助教)

〈著書〉

大久保圭介 (分担執筆), 「アタッチメント」, pp. 122-136, 相馬花恵・板口典弘(編)『ステップアップ心理学シリーズ発達心理学—こころの展開とその支援—』, 講談社, 2022, 総頁数256.

大久保圭介 (共訳), 「抑うつ」, 「社交不安症」, pp. 274-289, 318-322, 川本哲也・喜入暁・杉浦義典, 『進化精神病理学 心理学と精神医学の統合的ア

ブローチ』, 福村出版, 2023, 総頁数480.

〈雑誌論文〉

大久保圭介 (共著), 「妊娠期の夫婦間の話し合い度と育児期のゲートキーピングの関連—就業形態の組み合わせごとの検討—」(唐音啓氏, 遠藤利彦氏, 野澤祥子氏との共著), 『発達心理学研究』第33号, 日本発達心理学会, 2022, pp.55-64.

大久保圭介 (共著), 「児童期後期から青年期後期における肯定的再評価と感情にまつわる話し合い—コホート系列デザインによる10年の縦断的関連—」(出野美那子氏, 滝沢龍氏, 遠藤利彦氏との共著), 『発達心理学研究』第33号, 日本発達心理学会, 2022, pp.378-390.

K, Okubo (共著), 「Development of the Japanese Parenting Style Scale and examination of its validity and reliability」(Yinqi Tang 氏, Jiwon Lee 氏, Toshihiko Endo氏, Sachiko Nozawa氏との共著), 『Scientific Reports』第12巻, 18099, 2022.